

統一的な基準による財務書類

令和 6 年度決算分

南陽市財政課

- 1 統一的な基準による財務書類 P1～P9
(一般・全体・連結 財務書類 3 表)
- 2 統一的な基準による財務書類説明資料 P10～P26
- 3 南陽市の財務書類 (分析編) P27～P41

一般会計等貸借対照表

(令和 7年 3月31日現在)

(単位:円)

科目	金額	科目	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	40,902,664,307	固定負債	15,090,877,167
有形固定資産	38,461,136,283	地方債	13,024,823,167
事業用資産	21,877,897,664	地方債等(臨時財政対策債除く)	9,373,117,552
土地	9,082,315,866	臨時財政対策債	3,651,705,615
立木竹	0	長期未払金	0
建物	32,108,072,412	退職手当引当金	2,066,054,000
建物減価償却累計額	-19,562,363,516	損失補償等引当金	0
工作物	529,952,025	その他	0
工作物減価償却累計額	-280,079,123	流動負債	1,760,274,446
船舶	0	1年内償還予定地方債	1,401,491,993
船舶減価償却累計額	0	地方債等(臨時財政対策債除く)	953,401,687
浮標等	0	臨時財政対策債	448,090,306
浮標等減価償却累計額	0	未払金	0
航空機	0	未払費用	0
航空機減価償却累計額	0	前受金	0
その他	0	前受収益	0
その他減価償却累計額	0	賞与等引当金	325,277,043
建設仮勘定	0	預り金	33,505,410
インフラ資産	16,277,666,830	その他	0
土地	3,551,648,381	負債合計	16,851,151,613
建物	65,520,000	【純資産の部】	
建物減価償却累計額	-39,259,708	固定資産等形成分	41,744,603,556
工作物	31,199,574,975	余剰分(不足分)	-15,734,617,199
工作物減価償却累計額	-18,499,816,818		
その他	0		
その他減価償却累計額	0		
建設仮勘定	0		
所有外管理資産	0		
所有外管理資産減価償却累計額	0		
物品	1,422,112,217		
物品減価償却累計額	-1,116,540,428		
無形固定資産	1		
ソフトウェア	1		
その他	0		
投資その他の資産	2,441,528,023		
投資及び出資金	220,219,781		
有価証券	20,828,481		
出資金	199,391,300		
その他	0		
投資損失引当金	0		
長期延滞債権	79,438,286		
長期貸付金	10,601,400		
基金	2,142,421,860		
減債基金	101,985,531		
その他	2,040,436,329		
その他	0		
徴収不能引当金	-11,153,303		
流動資産	1,958,473,663		
現金預金	1,015,746,480		
未収金	30,102,952		
短期貸付金	0		
基金	912,624,231		
財政調整基金	857,611,231		
減債基金	55,013,000		
棚卸資産	0		
その他	0		
徴収不能引当金	0		
資産合計	42,861,137,970	純資産合計	26,009,986,357
		負債及び純資産合計	42,861,137,970

【様式第2号及び第3号(結合)】

一般会計等行政コスト及び純資産変動計算書

自 令和 6年 4月 1日

至 令和 7年 3月31日

(単位:円)

科目	金額		
経常費用	15,131,242,793		
業務費用	7,816,373,044		
人件費	2,817,982,908		
職員給与費	1,854,497,796		
賞与等引当金繰入額	325,277,043		
退職手当引当金繰入額	192,778,564		
その他	445,429,505		
物件費等	4,840,966,533		
物件費	3,319,343,323		
維持補修費	40,324,327		
減価償却費	1,481,298,883		
その他	0		
その他の業務費用	157,423,603		
支払利息	87,909,495		
徴収不能引当金繰入額	3,668,832		
その他	65,845,276		
移転費用	7,314,869,749		
補助金等	3,109,525,879		
社会保障給付	2,500,793,685		
他会計への繰出金	1,613,926,252		
その他	90,623,933		
経常収益	519,857,255		
使用料及び手数料	119,192,908		
その他	400,664,347		
純経常行政コスト	14,611,385,538		
臨時損失	18,290,114		
災害復旧事業費	9,939,815		
資産除売却損	27		
投資損失引当金繰入額	0		
損失補償等引当金繰入額	0		
その他	8,350,272		
臨時利益	3,182,969		
資産売却益	3,182,969		
その他	0		
純行政コスト	14,626,492,684		
財源	14,903,572,618		
税収等	10,852,885,584		
国県等補助金	4,050,687,034		
本年度差額	277,079,934		
固定資産等の変動(内部変動)			
有形固定資産等の増加		49,916,957	-49,916,957
有形固定資産等の減少		1,665,850,780	-1,665,850,780
貸付金・基金等の増加		-1,481,298,912	1,481,298,912
貸付金・基金等の減少		1,255,527,378	-1,255,527,378
資産評価差額	-45,402	-45,402	
無償所管換等	48,803,461	48,803,461	
その他	-510,568	-510,568	0
本年度純資産変動額	325,327,425	98,164,448	227,162,978
前年度末純資産残高	25,684,658,931	41,646,439,108	-15,961,780,177
本年度末純資産残高	26,009,986,357	41,744,603,556	-15,734,617,199

【様式第4号】

一般会計等資金収支計算書

自 令和 6年 4月 1日

至 令和 7年 3月31日

(単位:円)

科目	金額
【業務活動収支】	
業務支出	13,623,265,999
業務費用支出	6,308,396,250
人件費支出	2,794,973,829
物件費等支出	3,359,667,650
支払利息支出	87,909,495
その他の支出	65,845,276
移転費用支出	7,314,869,749
補助金等支出	3,109,525,879
社会保障給付支出	2,500,793,685
他会計への繰出支出	1,613,926,252
その他の支出	90,623,933
業務収入	14,919,428,852
税収等収入	10,841,408,554
国県等補助金収入	3,560,673,534
使用料及び手数料収入	119,239,304
その他の収入	398,107,460
臨時支出	9,939,815
災害復旧事業費支出	9,939,815
その他の支出	0
臨時収入	0
業務活動収支	1,286,223,038
【投資活動収支】	
投資活動支出	2,921,378,158
公共施設等整備費支出	1,665,850,780
基金積立金支出	1,225,047,378
投資及び出資金支出	0
貸付金支出	30,480,000
その他の支出	0
投資活動収入	1,875,008,488
国県等補助金収入	490,013,500
基金取崩収入	1,348,817,017
貸付金元金回収収入	32,995,000
資産売却収入	3,182,971
その他の収入	0
投資活動収支	-1,046,369,670
【財務活動収支】	
財務活動支出	1,393,999,378
地方債償還支出	1,393,999,378
その他の支出	0
財務活動収入	1,071,700,000
地方債発行収入	1,071,700,000
その他の収入	0
財務活動収支	-322,299,378
本年度資金収支額	-82,446,010
前年度末資金残高	1,064,687,080
本年度末資金残高	982,241,070

前年度末歳計外現金残高	23,407,938
本年度歳計外現金増減額	10,097,472
本年度末歳計外現金残高	33,505,410
本年度末現金預金残高	1,015,746,480

全体貸借対照表

(令和 7年 3月31日現在)

(単位:円)

科目	金額	科目	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	62,840,815,017	固定負債	28,393,722,345
有形固定資産	58,413,716,715	地方債	19,421,692,768
事業用資産	21,877,897,665	地方債等(臨時財政対策債除く)	15,769,987,153
土地	9,082,315,866	臨時財政対策債	3,651,705,615
立木竹	0	長期未払金	0
建物	32,109,342,563	退職手当引当金	2,356,326,050
建物減価償却累計額	-19,563,633,666	損失補償等引当金	0
工作物	529,952,025	その他	6,615,703,527
工作物減価償却累計額	-280,079,123	流動負債	2,673,929,374
船舶	0	1年内償還予定地方債	2,125,018,358
船舶減価償却累計額	0	地方債等(臨時財政対策債除く)	1,676,928,052
浮標等	0	臨時財政対策債	448,090,306
浮標等減価償却累計額	0	未払金	151,719,395
航空機	0	未払費用	0
航空機減価償却累計額	0	前受金	0
その他	0	前受収益	0
その他減価償却累計額	0	賞与等引当金	354,637,495
建設仮勘定	0	預り金	42,554,126
インフラ資産	36,044,746,158	その他	0
土地	3,808,983,456	負債合計	31,067,651,719
建物	587,621,735	【純資産の部】	
建物減価償却累計額	-368,623,132	固定資産等形成分	63,647,944,371
工作物	63,482,716,009	余剰分(不足分)	-28,480,596,401
工作物減価償却累計額	-31,655,497,468		
その他	0		
その他減価償却累計額	0		
建設仮勘定	189,545,558		
所有外管理資産	0		
所有外管理資産減価償却累計額	0		
物品	2,168,660,412		
物品減価償却累計額	-1,677,587,520		
無形固定資産	873,397,414		
ソフトウェア	1		
その他	873,397,413		
投資その他の資産	3,553,700,888		
投資及び出資金	223,558,781		
有価証券	20,828,481		
出資金	202,730,300		
その他	0		
投資損失引当金	0		
長期延滞債権	161,862,501		
長期貸付金	10,601,400		
基金	3,182,818,786		
減債基金	101,985,531		
その他	3,080,833,255		
その他	71,540		
徴収不能引当金	-25,212,119		
流動資産	3,394,184,671		
現金預金	2,292,296,968		
未収金	176,634,184		
短期貸付金	0		
基金	912,624,231		
財政調整基金	857,611,231		
減債基金	55,013,000		
棚卸資産	15,308,992		
その他	0		
徴収不能引当金	-2,679,704		
資産合計	66,234,999,688	純資産合計	35,167,347,970
		負債及び純資産合計	66,234,999,688

全体行政コスト及び純資産変動計算書

自 令和 6年 4月 1日
至 令和 7年 3月31日

(単位:円)

科目	金額		
経常費用	21,927,739,720		
業務費用	9,699,837,617		
人件費	3,073,070,731		
職員給与費	2,048,578,938		
賞与等引当金繰入額	354,637,495		
退職手当引当金繰入額	200,392,535		
その他	469,461,763		
物件費等	6,218,286,451		
物件費	3,868,631,998		
維持補修費	105,644,058		
減価償却費	2,244,010,395		
その他	0		
その他の業務費用	408,480,435		
支払利息	183,231,070		
徴収不能引当金繰入額	13,256,810		
その他	211,992,555		
移転費用	12,227,902,103		
補助金等	3,087,486,294		
社会保障給付	9,049,781,876		
他会計への繰出金	0		
その他	90,633,933		
経常収益	1,604,826,181		
使用料及び手数料	1,170,664,556		
その他	434,161,625		
純経常行政コスト	20,322,913,539		
臨時損失	62,752,504		
災害復旧事業費	9,939,815		
資産除売却損	7,481,648		
投資損失引当金繰入額	0		
損失補償等引当金繰入額	0		
その他	45,331,041		
臨時利益	16,065,349		
資産売却益	3,182,969		
その他	12,882,380		
純行政コスト	20,369,600,695		
財源	20,962,600,013		
税収等	13,110,106,493		
国県等補助金	7,852,493,520		
本年度差額	592,999,318		
固定資産等の変動(内部変動)			
有形固定資産等の増加		-69,134,313	69,134,313
有形固定資産等の減少		2,903,416,920	-2,903,416,920
貸付金・基金等の増加		-2,845,309,113	2,845,309,113
貸付金・基金等の減少		1,379,922,629	-1,379,922,629
資産評価差額	-45,402	-1,507,164,749	1,507,164,749
無償所管換等	58,014,419	-45,402	
その他	-510,568	58,014,419	
本年度純資産変動額	650,457,767	-510,568	0
前年度末純資産残高	34,516,890,202	-11,675,864	662,133,632
本年度末純資産残高	35,167,347,970	63,659,620,235	-29,142,730,033
		63,647,944,371	-28,480,596,401

【様式第4号】

全体資金収支計算書

自 令和 6年 4月 1日

至 令和 7年 3月31日

(単位:円)

科目	金額
【業務活動収支】	
業務支出	19,727,296,824
業務費用支出	7,499,394,721
人件費支出	3,041,430,401
物件費等支出	4,062,604,295
支払利息支出	183,231,070
その他の支出	212,128,955
移転費用支出	12,227,902,103
補助金等支出	3,087,486,294
社会保障給付支出	9,049,781,876
他会計への繰出支出	0
その他の支出	90,633,933
業務収入	21,924,576,667
税込等収入	13,090,757,288
国県等補助金収入	7,185,057,326
使用料及び手数料収入	1,217,157,315
その他の収入	431,604,738
臨時支出	46,920,584
災害復旧事業費支出	9,939,815
その他の支出	36,980,769
臨時収入	17,280
業務活動収支	2,150,376,539
【投資活動収支】	
投資活動支出	3,677,962,353
公共施設等整備費支出	2,298,039,724
基金積立金支出	1,349,442,629
投資及び出資金支出	0
貸付金支出	30,480,000
その他の支出	0
投資活動収入	2,149,872,048
国県等補助金収入	647,874,600
基金取崩収入	1,465,819,477
貸付金元金回収収入	32,995,000
資産売却収入	3,182,971
その他の収入	0
投資活動収支	-1,528,090,305
【財務活動収支】	
財務活動支出	2,138,909,266
地方債償還支出	2,138,909,266
その他の支出	0
財務活動収入	1,383,600,000
地方債発行収入	1,383,600,000
その他の収入	0
財務活動収支	-755,309,266
本年度資金収支額	-133,023,032
前年度末資金残高	2,391,814,590
本年度末資金残高	2,258,791,558

前年度末歳計外現金残高	23,407,938
本年度歳計外現金増減額	10,097,472
本年度末歳計外現金残高	33,505,410
本年度末現金預金残高	2,292,296,968

連結貸借対照表

(令和 7年 3月31日現在)

(単位:円)

科目	金額	科目	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	67,412,512,590	固定負債	31,414,441,175
有形固定資産	62,663,967,073	地方債等	21,572,726,062
事業用資産	25,258,888,095	地方債等(臨時財政対策債除く)	17,921,020,447
土地	9,714,210,986	臨時財政対策債	3,651,705,615
立木竹	0	長期未払金	0
建物	37,559,528,405	退職手当引当金	2,785,802,085
建物減価償却累計額	-22,677,879,969	損失補償等引当金	0
工作物	1,320,820,403	その他	7,055,913,028
工作物減価償却累計額	-657,791,730	流動負債	3,356,552,308
船舶	0	1年内償還予定地方債等	2,541,581,610
船舶減価償却累計額	0	地方債等(臨時財政対策債除く)	2,093,491,304
浮標等	0	臨時財政対策債	448,090,306
浮標等減価償却累計額	0	未払金	312,542,129
航空機	0	未払費用	1,320,050
航空機減価償却累計額	0	前受金	0
その他	0	前受収益	0
その他減価償却累計額	0	賞与等引当金	455,772,572
建設仮勘定	0	預り金	44,177,392
インフラ資産	36,046,345,855	その他	1,158,555
土地	3,808,983,456	負債合計	34,770,993,483
建物	587,621,735	【純資産の部】	
建物減価償却累計額	-368,623,132	固定資産等形成分	68,201,056,275
工作物	63,492,295,033	余剰分(不足分)	-31,492,032,724
工作物減価償却累計額	-31,663,476,795	他団体出資等分	0
その他	0		
その他減価償却累計額	0		
建設仮勘定	189,545,558		
所有外管理資産	0		
所有外管理資産減価償却累計額	0		
物品	6,240,453,639		
物品減価償却累計額	-4,881,720,516		
無形固定資産	873,639,191		
ソフトウェア	1		
その他	873,639,190		
投資その他の資産	3,874,906,325		
投資及び出資金	155,075,581		
有価証券	20,828,481		
出資金	134,235,300		
その他	11,800		
長期延滞債権	161,889,562		
長期貸付金	16,500,946		
基金	3,566,580,869		
減債基金	101,985,531		
その他	3,464,595,338		
その他	71,540		
徴収不能引当金	-25,212,172		
流動資産	4,067,504,444		
現金預金	2,645,080,277		
未収金	486,789,661		
短期貸付金	0		
基金	912,624,231		
財政調整基金	857,611,231		
減債基金	55,013,000		
棚卸資産	29,749,987		
その他	234,224		
徴収不能引当金	-6,973,936		
繰延資産	0		
資産合計	71,480,017,033	純資産合計	36,709,023,550
		負債及び純資産合計	71,480,017,033

連結行政コスト及び純資産変動計算書

自 令和 6年 4月 1日
至 令和 7年 3月31日

(単位:円)

科目	金額			
経常費用	24,130,658,557			
業務費用	12,917,910,452			
人件費	4,621,917,024			
職員給与費	3,461,749,568			
賞与等引当金繰入額	455,772,572			
退職手当引当金繰入額	233,953,334			
その他	470,441,550			
物件費等	7,781,843,922			
物件費	4,997,367,035			
維持補修費	229,675,311			
減価償却費	2,554,801,576			
その他	0			
その他の業務費用	514,149,506			
支払利息	202,584,674			
徴収不能引当金繰入額	13,256,930			
その他	298,307,902			
移転費用	11,212,748,105			
補助金等	1,923,704,550			
社会保障給付	9,049,786,426			
その他	239,257,129			
経常収益	3,551,471,908			
使用料及び手数料	3,042,450,526			
その他	509,021,382			
純経常行政コスト	20,579,186,649			
臨時損失	93,692,195			
災害復旧事業費	9,939,815			
資産除売却損	8,635,514			
損失補償等引当金繰入額	0			
その他	75,116,866			
臨時利益	16,883,512			
資産売却益	3,439,492			
その他	13,444,020			
純行政コスト	20,655,995,333			
財源	21,137,192,831			
税収等	13,269,704,683			
国県等補助金	7,867,488,148			
本年度差額	481,197,498			
固定資産等の変動(内部変動)				
有形固定資産等の増加		-190,214,733	190,214,733	
有形固定資産等の減少		3,084,747,787	-3,084,747,787	
貸付金・基金等の増加		-3,157,254,160	3,157,254,160	
貸付金・基金等の減少		1,400,986,624	-1,400,986,624	
資産評価差額	-45,402	-1,518,694,984	1,518,694,984	
無償所管換等	58,022,550	-45,402		
他団体出資等分の増加	0	58,022,550		
他団体出資等分の減少	0			
比例連結割合変更に伴う差額	81,536,651			
その他	-44,877,502	162,013,029	-80,476,378	
本年度純資産変動額	575,833,795	16,348,758	-61,226,260	
前年度末純資産残高	36,133,189,755	46,124,202	529,709,594	0
本年度末純資産残高	36,709,023,550	68,154,932,073	-32,021,742,318	0
		68,201,056,275	-31,492,032,724	0

【様式第4号】

連結資金収支計算書

自 令和 6年 4月 1日

至 令和 7年 3月31日

(単位:円)

科目	金額
【業務活動収支】	
業務支出	21,598,296,884
業務費用支出	10,385,548,779
人件費支出	4,572,819,981
物件費等支出	5,311,497,383
支払利息支出	202,787,193
その他の支出	298,444,222
移転費用支出	11,212,748,105
補助金等支出	1,923,704,550
社会保障給付支出	9,049,786,426
その他の支出	239,257,129
業務収入	24,144,985,996
税込等収入	13,343,848,365
国県等補助金収入	7,189,013,735
使用料及び手数料収入	3,108,178,639
その他の収入	503,945,257
臨時支出	76,706,409
災害復旧事業費支出	9,939,815
その他の支出	66,766,594
臨時収入	578,920
業務活動収支	2,470,561,623
【投資活動収支】	
投資活動支出	3,877,742,488
公共施設等整備費支出	2,476,765,038
基金積立金支出	1,370,497,450
投資及び出資金支出	0
貸付金支出	30,480,000
その他の支出	0
投資活動収入	2,161,657,405
国県等補助金収入	647,874,600
基金取崩収入	1,476,359,668
貸付金元金回収収入	33,983,643
資産売却収入	3,439,494
その他の収入	0
投資活動収支	-1,716,085,083
【財務活動収支】	
財務活動支出	2,498,151,606
地方債等償還支出	2,497,304,020
その他の支出	847,586
財務活動収入	1,539,524,621
地方債等発行収入	1,539,524,621
その他の収入	0
財務活動収支	-958,626,985
本年度資金収支額	-204,150,445
前年度末資金残高	2,791,422,864
比例連結割合変更に伴う差額	22,939,773
本年度末資金残高	2,610,212,192

前年度末歳計外現金残高	24,571,452
本年度歳計外現金増減額	10,296,633
本年度末歳計外現金残高	34,868,085
本年度末現金預金残高	2,645,080,277

令和6年度

南陽市

統一的な基準による財務書類

説明会分析資料

令和8年3月

落合公認会計士事務所

目 次

I 令和6年度 南陽市財務書類の公表について

II 地方公会計制度について

- (1) 固定資産台帳と財務書類の作成の必要性
- (2) 地方自治体における地方債の特徴
- (3) 企業会計手法の導入
- (4) 財務書類とは？
- (5) 統一的な基準の活用方法
- (6) 財務書類の作成ツール
- (7) 日々仕訳とは？

III 令和6年度 財務書類（要約）

- (1) 貸借対照表〔バランスシート〕
- (2) 行政コスト計算書及び純資産変動計算書
- (3) 資金収支計算書
- (4) 相関図

IV 財務書類分析からわかること

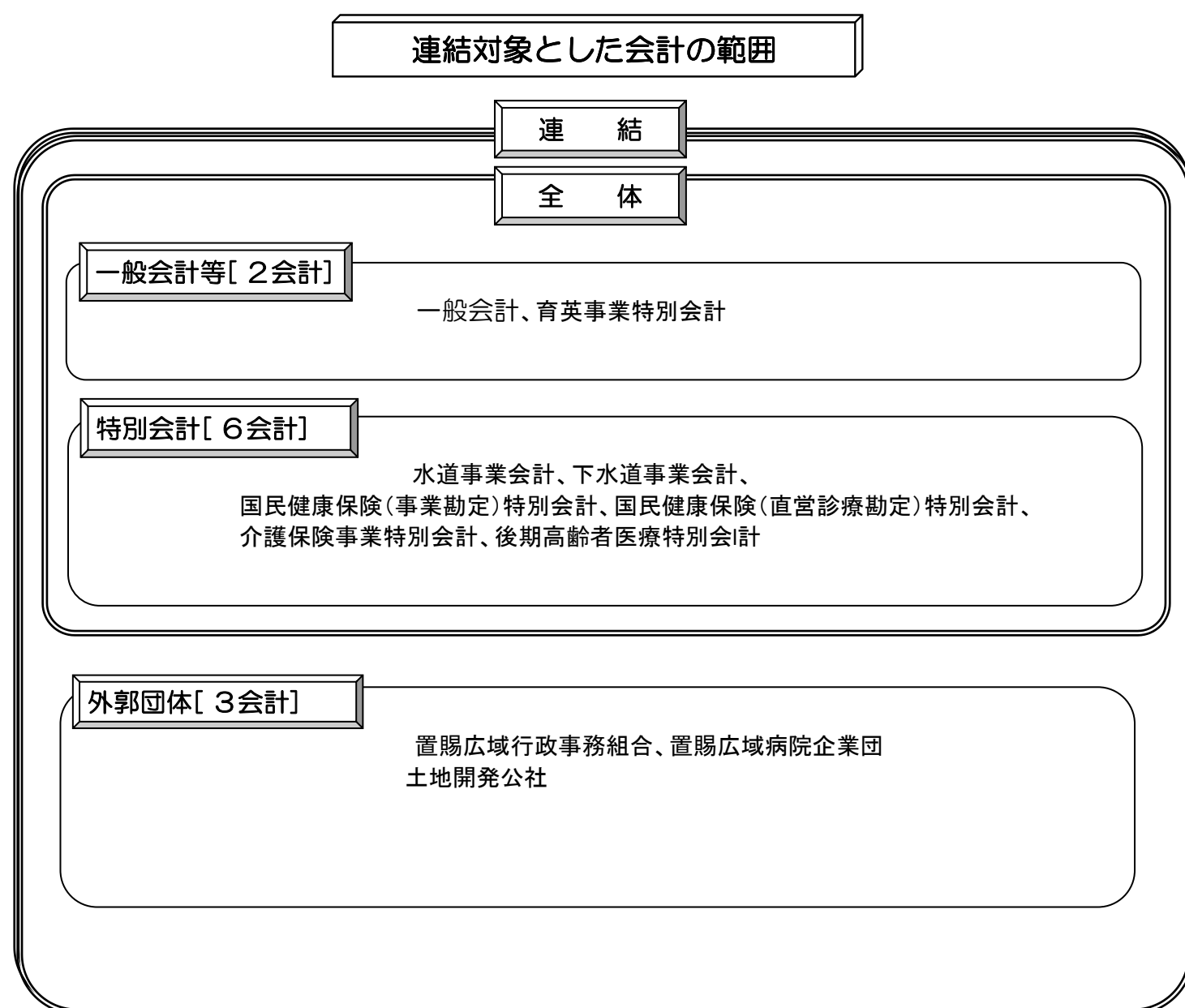
- (1) 比較分析のための前提条件
- (2) 貸借対照表から見える将来の負担
- (3) 実質債務（地方債等と現金預金）の状況
- (4) 純資産変動計算書の「本年度差額」の状況
- (5) 純資産変動計算書の「固定資産等の変動」の状況
- (6) 資金収支計算書から読みとれる二つの基礎的財政収支の状況
- (7) 歳入歳出決算書の経年データ

I 令和6年度 南陽市財務書類の公表について

平成18年6月に成立した「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」を契機に、地方の資産・債務改革の一環として「新地方公会計制度の整備」が位置づけられました。これにより「新地方公会計制度研究会報告書」で示された「基準モデル」又は「総務省方式改訂モデル」を活用して、地方公共団体単体及び関連団体等を含む連結ベースでの財務書類を人口3万人以上の都市においては、平成21年度までに整備し公表するよう通知されました。

こうした状況を踏まえ、本市では平成20年度から「基準モデル」により資産台帳の整備に着手し、複式簿記に基づき発生主義による財務書類を作成することにより、本市が所有する全ての資産と負債状況や行政サービスに要したコストを把握してまいりました。

しかし、平成26年4月30日に財務書類の作成方法の統一化のための「今後の新地方公会計の推進に関する研究会報告書」が取りまとめられ、平成27年1月23日に「統一的な基準による地方公会計マニュアル」が取りまとめられました。本市では平成27年度から「統一的な基準」により財務書類を作成することにしました。これにより団体間の比較可能性が確保され、決算分析や予算編成へ活用されています。



※ 全体とは、一般会計等に特別会計を含めたもので、連結とは、全体に外郭団体を含めたものです。
なお、外郭団体のうち第三セクターについては、市の出資比率が50%以上の団体を対象としています。

Ⅱ 地方公会計制度について

1. 固定資産台帳と財務書類の作成の必要性

- ① 税収も地方債も同じ財源だが、返済義務の有無で相違するので、地方債に依存すると債務肥大化する。
- ② 債務が肥大化した理由の一つは、財源に借金を含めて、財政運営をしてきたためである。
- ③ 財政改善のための歳入増、歳出減は難しく、資産債務改革が必要となり、資産に手を付けることになった。
- ④ 地方交付税算定のための公有財産台帳並びに各種法定台帳の作成(数量管理)から、有効活用のための固定資産台帳(金額管理)の作成。
- ⑤ 厳しい財政事情のもと、財政の透明性、効率化、適正化が求められ、企業会計手法を活用した財務書類の開示も求められた。

2. 地方自治体における地方債の特徴

固定資産形成に充てるための地方債には、次の魅力がある。

- ① 財政運営上、借金は、現役世代と将来世代をつなぐ世代間公平性を確保するための、重要な架け橋である。
- ② 予算編成上、後日交付税措置される借金は、借金した方が得なので、税収・補助金収入と同様に、重要な財源である。

3. 企業会計手法の導入

(1)官庁会計に収支の概念を導入した

- ① 予算の適正・確実な執行においては、歳入と歳出は一致しなければならない。
- ② 財政状態を診断するためには、歳入から歳出を差し引いた収支の概念が必要となる。

(2)導入例

- ① 貸借対照表の純資産
- ② 資金収支計算書の基礎的財政収支(借金に依存しなかった場合の収支)
(あ)基礎的財政収支とは、計算上は、歳入から繰越金と公債発行を、歳出から公債費を、除外した収支。
(い)借金を財源とした結果、債務が肥大化したので、借金に依存しなかった場合の収支を把握する。

4. 財務書類とは？

(1)総務省の財務書類に対する考え方

- ① 財務書類の作成指針として、「民間の利益目的」でなく、「財政の三つの役割」を基礎にしている。
- ② 「財政の三つの役割」には、「資源配分機能」、「所得再分配機能」および「経済調整機能」。
- ③ 「資源配分機能」は、現役世代に対する資源配分と、将来世代に対する資源配分がある。

(2)財務書類とは、自治体の「立ち位置」・「身の丈」を表す書類で、健康診断書でもあり、4表又は3表から構成される。

種類	数値の内容	情報内容
貸借対照表	発生主義データを含み、年度末時点の財政状態を示す	ストック情報
行政コスト計算書	減価償却費等の発生主義データを含み、現役世代に対する資源配分内訳を示す	1年間の運営状況を示す(フロー情報)
純資産変動計算書	現役世代に対する資源配分の合計額と将来世代に対する資源配分の増減額、並びに税収等財源を対比させ運営状況を示す	
資金収支計算書	現金主義により、資金収支による運営状況を示す	

(3)3表様式の長所

- ① 現役世代と将来世代に対する資源配分の状況の各内訳が、一つの表に集約されたので、議員、住民に対する説明が、しやすくなった。
- ② 行政コスト計算書と純資産変動計算書を結合させた書類が、民間企業の損益計算書に相当するので、理解しやすい。

(4)連結決算とは？

- ① 全体会計＝親＋子 ＝一般会計等決算＋公営事業会計
連結決算＝親＋子＋親戚＝一般会計等決算＋公営事業会計＋外郭団体(一組・広域＋関係団体)
- ② 連結決算の必要性
 - ・ 親・子・親戚間で、「繰出金」、「負担金・補助金」、「委託費」を支出しており、資金関係が密接なため、相殺表示が必要である。

(5)発生主義決算とは？

- ① ・歳入・歳出決算数値に、「見えないおカネ」を加えて決算すること。
・「見えないおカネ」とは、将来、資金の流入が見込まれる事象に係る数値で、「発生主義数値」ともいう。
- ② 発生主義数値の例
 - ・将来、資金の出し入れを伴い、債権債務の確定したもの……………収入未済額、リース債務等
 - ・現在、債権・債務は確定していないが、確定に準じたもの……………賞与引当金、退職手当引当金等
 - ・現時点の保有する資産の価値の増減を推定する項目……………減価償却費、不納欠損額、評価損益等

5. 統一的な基準の活用方法

(1) 固定資産データの活用

毎年の「維持費」に「減価償却費」を加えてフルコストによる「事業別または施設別収支」を作成すること。

- ① 施設の更新、統廃合について、リストアップして議論する段階で、数値情報を提供する。
- ② フルコストによる受益者負担割合算定のための数値情報、及び一人あたりコスト情報を提供する。
- ③ 民間の資金・ノウハウを活用したPPP／PFIの導入のために、固定資産データの公表が期待される。

(2) 財務書類の活用

年1回作成される財務書類は、自治体の「健康診断書」である。

- ① 誰が活用するのか……財政経営者つまり首長から財政までのラインで特に「財政課長」である。
- ② 活用とは？……………経年比較、他団体比較を通じて、自分の役所の状況を読み取り、今後に活かすことである。
住民並びに住民の代表から質問があった場合、「財政課長が読み取ったことを、首長までが共有し、今後に活かしているので、活用されている。」

6. 財務書類の作成ツール

- ① 「財務書類作成要領29段落」による集計値を使用する方法によれば、仕訳変換処理で特定できる場合の仕訳件数は、概ね節の科目数(歳入16・歳出28)程度の仕訳で済むので、表計算ソフトでの対応が可能となり、検証もしやすい。
- ② 当事務所の財務書類作成ソフトは、平成27年11月27日に特許権を取得した。

(参考)

(イ) 統一的な基準で求められる固定資産台帳の基準モデル団体への取り扱い

- ① 固定資産マニュアルによれば、「既に固定資産台帳が基準モデル等に基づいて評価されている資産について、合理的かつ客観的な基準によって評価されたものであれば、引き続き、当該評価額によることを許容する」と記載し、二重負担を回避している。
- ② 道路、河川及び水路の敷地については、統一的な基準では、一定の場合1円評価としており、基準モデル評価を継続する場合、基準が異なることによる評価誤差が大きくなるので注記が求められる。

(ロ) 統一的な基準で求められる複式簿記の方法

(1) 財務書類作成の概略

- ① すべての資金取引について「仕訳変換」を行い、かつ、すべての非資金取引について「仕訳処理」を行い、仕訳帳に記載する。
- ② 仕訳帳が完成したら、会計ソフト、表計算ソフト等により集計し、総勘定元帳並びに試算表に転記し、財務書類が完成。

(2) 仕訳帳への記載の仕方

- ① 単式簿記により記帳された歳入歳出データは、「仕訳変換処理」により、仕訳帳に記載する。
(a) 予算科目から、統一的な基準の勘定科目を「特定できる」場合
・工事請負費・公有財産購入費・委託費等の固定資産に関係する予算科目を除くと、その多くの予算科目は、行政コストに計上されるものと資産に計上されるものとに、特定されている。
・特定された予算科目は、統一的な基準の地方公会計マニュアル資金仕訳変換表「別表6-1:6-2」に従い、仕訳変換処理する。
・仕訳変換処理の設定をしておけば仕訳集計が、自動計算されるので、簿記の知識の有無は重要ではない。
(b) 予算科目から、統一的な基準の勘定科目を「特定できない」場合
・「特定できない」場合とは、工事請負費等の固定資産に関係する予算科目の場合であり、個別伝票毎に、その歳入歳出について、行政コストなのか資産形成なのか、科目及び金額を特定する必要がある。
・資産形成か維持補修費の特定は、簿記の知識が必要となり、システムの自動計算で変換してくれない。
- ② 仕訳記帳されていない非資金取引(見えないお金)は、複式簿記により、仕訳帳に記載する。
・発生主義取引による非資金仕訳例は、「財務書類作成要領」の「別表7」に例示されている。
・作成担当者は、発生主義データの意味、計算過程を知る必要があるので、複式簿記の知識が必要である。

(3) 仕訳変換処理の単位

- ① 仕訳帳は、歳入歳出データを単位として、伝票単位毎に作成することを、原則とする。
- ② 歳入歳出データとの整合性が検証できる場合には、「予算科目単位で集計した歳入歳出データ」に仕訳を付与し、仕訳帳の1単位とすることも妨げない。」という、予算科目単位の集計値による変換法とする。(マニュアル「財務書類作成要領29段落」)

7. 日々仕訳とは？

(1) 目的により簿記の方法が異なる。

- ① 予算の適正・確実な執行のためには、「複式簿記」より「単式簿記」が優れている。
- ② 財務書類を作成する場合、「見えないお金」も含むために、数値の正確性を担保するためには、「複式簿記」が必要。

(2) 複式簿記の記帳のタイミング

- ① 「日々仕訳」が望ましいとされているが、そのためには全庁的に知識が必要。
- ② 金銭の入出金程度の記帳ならまだしも、日常業務に加えて複式簿記の習得など、民間ではあり得ない。
- ③ 事務負担や経費負担を考えて、「今後の新地方公会計の推進に関する研究会報告書(平成26年4月総務省)294項」に記載された「期末一括仕訳方式」により作成する。

Ⅲ 令和6年度 財務書類（要約）

（1）貸借対照表（バランスシート）（令和7年3月31日）

令和7年3月31日現在に保有する資産、負債、純資産を表示したもので、地方自治体が、住民サービスを提供するために保有している資産と、その資産をどのような財源（負債・純資産）で賄ってきたのかについて、総括的に示したものです。行政的には、資産は、サービス提供能力を示し、負債は、将来世代の負担を示し、純資産は、現在までの世代の負担と捉えます。

（単位：百万円）

資産の部							負債の部								
項目		一般会計等		全体		連結		項目	一般会計等		全体		連結		
		金額	比率	金額	比率	金額	比率		金額	比率	金額	比率	金額	比率	
(1)固定資産		40,903	95%	62,841	95%	67,413	94%	(1)固定負債		15,091	35%	28,394	43%	31,414	44%
	(1)有形固定資産	38,461	90%	58,414	88%	62,664	88%	①地方債等		13,025	30%	19,422	29%	21,573	30%
	①事業用資産	21,878	51%	21,878	33%	25,259	35%	②退職手当引当金		2,066	5%	2,356	4%	2,786	4%
	②インフラ資産	16,278	38%	36,045	54%	36,046	50%	③その他		0	0%	6,616	10%	7,056	10%
	③物品	306	1%	491	1%	1,359	2%	(2)流動負債		1,760	4%	2,674	4%	3,357	5%
	(2)無形固定資産	0	0%	873	1%	874	1%	①1年内償還予定地方債等		1,401	3%	2,125	3%	2,542	4%
	(3)投資その他の資産	2,442	6%	3,554	5%	3,875	5%	②未払金		0	0%	152	0%	313	0%
	①投資及び出資金	220	1%	224	0%	155	0%	③その他		359	1%	397	1%	502	1%
	②長期延滞債権	79	0%	162	0%	162	0%								
	③基金	2,142	5%	3,183	5%	3,567	5%	負債の部合計		16,851	39%	31,068	47%	34,771	49%
	④徴収不能引当金	-11	0%	-25	0%	-25	0%	純資産の部							
	⑤その他	11	0%	11	0%	17	0%	固定資産等形成分		41,745	97%	63,648	96%	68,201	95%
	(2)流動資産	1,958	5%	3,394	5%	4,068	6%	余剰分(不足分)		-15,735	-37%	-28,481	-43%	-31,492	-44%
	①現金預金	1,016	2%	2,292	3%	2,645	4%								
	②未収金	30	0%	177	0%	487	1%								
	③財政調整基金等	913	2%	913	1%	913	1%								
	④徴収不能引当金	0	0%	-3	0%	-7	0%								
	⑤その他	0	0%	15	0%	30	0%	純資産の部合計		26,010	61%	35,167	53%	36,709	51%
資産の部合計		42,861	100%	66,235	100%	71,480	100%	負債・純資産の部合計		42,861	100%	66,235	100%	71,480	100%

住民一人当たり								
項目		一般会計等	全体	連結	項目	一般会計等	全体	連結
	資産の部	149 万円	230 万円	248 万円	負債の部	58 万円	108 万円	121 万円
					純資産の部	90 万円	122 万円	127 万円

項目の説明	
(1)-(1)有形固定資産	①事業用資産：庁舎や学校などの有形固定資産 ②インフラ資産：道路や河川などの社会基盤となる資産 ③物品：器具備品や機械装置などの資産
(1)-(2)無形固定資産	ソフトウェア等無形の資産
(1)-(3)投資その他の資産	①投資及び出資金：運用目的の有価証券や出資金等の資産 ②長期延滞債権：税等の未収金や貸付金などの回収期限到来後1年を経過した資産 ③基金：特定の目的のために積立した資産 ④徴収不能引当金：長期延滞債権や長期の貸付金に対して徴収不能とみられる金額を見積り引当した金額
(2)流動資産	①現金預金：形式収支額（歳入歳出の差し引き額）や歳計外現金などの現金や預金の資産 ②未収金：税收や使用料手数料のうち回収期限到来後1年を経過していない資産 ③財政調整基金等：財政調整基金や1年以内に地方債の償還に充てられる減債基金
(1)固定負債	①地方債等：地方債・借入金残高のうち翌年度に償還する額を除いた残高 ②退職手当引当金：将来の退職者に対する給付すべきこととなる退職金の引当額
(2)流動負債	①1年内償還予定地方債等：地方債・借入金残高のうち翌年度償還予定額 ②未払金：企業会計団体の財貨または用役の提供を受けたが、支払が済んでいない残高
◎ 純資産合計	これまでの世代が負担して蓄積された資産

概 要	
今までに南陽市では、一般会計等ベースで429億円、全体ベースで662億円、連結ベースで715億円の資産を形成してきました。	
そのうち、純資産である、260億円（一般会計等）、352億円（全体）、367億円（連結）については、これまでの世代の負担で支払いが済んでおり、負債である169億円（一般会計等）、311億円（全体）、348億円（連結）について、これからの世代が負担していくことになります。	
※ 令和7年3月31日の南陽市の人口：	28,854 人

※四捨五入したため一致しない部分があります。

(2) 行政コスト計算書及び純資産変動計算書(令和6年4月1日から令和7年3月31日)

行政コスト計算書は、1年間の行政運営コストのうち、福祉サービスなどの提供といった資産形成に結びつかない行政サービスに要したコストを人件費、物件費、その他の業務費用、移転費用に区分して表示したものです。

純資産変動計算書(NWM)は、純資産(過去の世代や国・都道府県が負担した将来返済しなくてよい財産)が年度中にどのように増減したかを、①財源、②資産評価差額、③無償所管替等、④その他に区分して表示したものです。

(単位:百万円)

項目		一般会計等		全体		連結	
		金額	比率	金額	比率	金額	比率
1 経常費用 計 (行政コスト総額)		15,131	103%	21,928	108%	24,131	117%
	① 人件費	2,818	19%	3,073	15%	4,622	22%
	② 物件費等	4,841	33%	6,218	31%	7,782	38%
	うち減価償却費	1,481	10%	2,244	11%	2,555	12%
	③ その他の業務費用	157	1%	408	2%	514	2%
	④ 移転費用	7,315	50%	12,228	60%	11,213	54%
2 経常収益		520	4%	1,605	8%	3,551	17%
3 臨時損失		18	0%	63	0%	94	0%
4 臨時利益		3	0%	16	0%	17	0%
純行政コスト		14,626	100%	20,370	100%	20,656	100%
5 財源		14,904	102%	20,963	103%	21,137	102%
	① 税収等	10,853	74%	13,110	64%	13,270	64%
	② 国県等補助金	4,051	28%	7,852	39%	7,867	38%
本年度差額		277	2%	593	3%	481	2%
6 資産評価差額		-0	0%	-0	0%	-0	0%
7 無償所管替等		49	0%	58	0%	58	0%
8 その他の純資産変動額		-1	0%	-1	0%	37	0%
本年度純資産変動額		325	2%	650	3%	576	3%
前年度末純資産残高		25,685	-	34,517	-	36,133	-
本年度末純資産残高		26,010	-	35,167	-	36,709	-
※固定資産等の変動(内部変動)・固定資産等形成分		50	-	-69	-	-190	-
・有形固定資産等の増加		1,666	-	2,903	-	3,085	-
・有形固定資産等の減少		1,481	-	2,845	-	3,157	-
・貸付金・基金等の増加		1,256	-	1,380	-	1,401	-
・貸付金・基金等の減少		1,390	-	1,507	-	1,519	-

住民一人当たり

項目	一般会計等	全体	連結
1 純行政コスト	51 万円	71 万円	72 万円
2 財源	52 万円	73 万円	73 万円
3 本年度差額 (2財源－1純行政コスト)	1 万円	2 万円	2 万円

項目の説明

1 経常費用	①人件費：職員給与や議員報酬、退職給付費用など ②物件費等：備品や消耗品、委託費、使用料施設等の維持修繕に係る経費や事業用資産の減価償却費など ③その他の業務費用：地方債、関係団体の借入金の償還利子や徴収不能引当金繰入額など ④移転費用：住民への補助金や児童手当、生活保護費などの社会保障費など
2 経常収益	施設を使用した際に徴収する使用料や証明書の発行手数料、財産売却収入、雑入など
3 臨時損失	災害復旧事業費、資産の除売却損など臨時に発生するもの
4 臨時利益	資産の売却益など臨時に発生するもの
5 財源	①税収等：市税や利子割交付金などの交付金、特別会計の保険料等の収入など ②国県等補助金：国や都道府県からの補助金収入
6 資産評価差額	有価証券等の評価差額など
7 無償所管替等	無償で譲渡または取得した固定資産の評価額など
※固定資産の変動	有形固定資産・貸付金・基金等将来世代に対する資産形成の状況をいう

概要

令和6年度の純行政コストは、一般会計等ベースで146億円、全体ベース204億円、連結ベースで207億円になります。

住民の皆さんが負担した市税や国県等補助金などの財源は、一般会計等ベースで149億円、全体ベースで210億円、連結ベースでは211億円になります。

純行政コストと財源に資産評価差額、無償所管替等を加減した本年度純資産変動額は、一般会計等ベースで3億円、全体ベースで7億円、連結ベースで6億円であり、将来返済しなくてよい財産が一般会計等、全体、連結すべてで増加したことになります。

また、将来の世代に対する固定資産の変動状況ですが、一般会計等ベースで0億円、全体ベースで△1億円、連結ベースで△2億円となり、一般会計等、全体、連結すべてで減少しました。

※四捨五入したため一致しない部分があります。

(3) 資金収支計算書（令和6年4月1日から令和7年3月31日）

資金収支計算書は、1年間の資金の出入りを、現役世代に対する「業務活動収支」と、将来世代に対する「投資活動収支」と、将来世代が負担すべき「財務活動収支」という三つに区分した計算書です。

（単位：百万円）

項目	一般会計等	全体	連結
(イ)業務活動収支(④-③+②-①)	1,286	2,150	2,471
①業務支出(注)	13,623	19,727	21,598
②業務収入	14,919	21,925	24,145
③臨時支出	10	47	77
④臨時収入	0	0	1
(ロ)投資活動収支(②-①)	-1,046	-1,528	-1,716
①投資活動支出	2,921	3,678	3,878
②投資活動収入	1,875	2,150	2,162
利払後基礎的財政収支(イ+ロ)	240	622	754
(ハ)財務活動収支(②-①)	-322	-755	-959
①財務活動支出	1,394	2,139	2,498
②財務活動収入	1,072	1,384	1,540
1 本年度資金収支額(イ+ロ+ハ)	-82	-133	-204
2 前年度末歳計現金残高	1,065	2,392	2,791
3 比例連結割合変更に伴う差額	0	0	23
4 本年度末歳計現金残高(1+2)	982	2,259	2,610
5 本年度末歳計外現金残高	34	34	35
6 本年度末現金預金残高(4+5)	1,016	2,292	2,645

(注)うち、地方債等支払利息支出 88 183 203

項目の説明

イ-①業務支出：行政サービスを行う中で、毎年度継続的に支出されるもの
（人件費、物件費、補助費、扶助費など）

イ-②業務収入：行政サービスを行う中で、毎年度継続的に収入されるもの
（市税、保険料、使用料、手数料など）

イ-③臨時支出：行政サービスを行う中で、臨時的に支出されるもの（災害復旧事業費など）

イ-④臨時収入：行政サービスを行う中で、臨時的に収入されるもの
（資産の売却に伴う収入など）

ロ-①投資活動支出：公共施設や道路整備などの資産形成、投資や貸付金などの金融資産形成に支出したもの

ロ-②投資活動収入：公共施設の資産形成の財源に充てられた補助金収入、土地などの固定資産の売却収入など

ハ-①財務活動支出：地方債や借入金などの元本の償還

ハ-②財務活動収入：地方債や借入金の収入

概要

令和6年度は、一般会計ベースで△1億円、全体ベースで△1億円、連結ベースで△2億円の資金が変動し、期末資金残高は、一般会計等ベースで10億円、全体ベースで23億円、連結ベースで26億円になりました。

利払後基礎的財政収支は、公債費を賄う財源となるものですが、一般会計等ベースで2億円、全体ベースで6億円、連結ベースで8億円でした。

※四捨五入したため一致しない部分があります。

(4) 財務書類の相関図

下記は、財務書類3表の関係を表しています。(一般会計等)

(単位:百万円)

(単位:百万円)

【資金収支計算書=CF】	
項目	金額
(イ)業務活動収支	1,286
①業務支出	13,623
②業務収入	14,919
③臨時支出	10
④臨時収入	0
(ロ)投資活動収支	-1,046
①投資活動支出	2,921
②投資活動収入	1,875
(ハ)財務活動収支	-322
①財務活動支出	1,394
②財務活動収入	1,072
1 本年度資金収支額(イ+ロ+ハ)	-82
2 前年度末歳計現金残高	1,065
3 本年度末歳計現金残高(1+2)	982
4 本年度末歳計外現金残高	34
5 本年度末現金預金残高(3+4)	1,016

(注)1年間の資金の出入りを表す資金収支計算書の「本年度末現金預金残高」は、下記の貸借対照表の資産の部に計上されます。

【行政コスト計算書及び純資産変動計算書=NW】			
項目	金額		
経常費用	15,131	4表形式では、純行政コストまでが「行政コスト計算書」、財源から下が「純資産変動計算書」となる	
業務費用	7,816		
移転費用	7,315		
経常収益	520		
臨時損失	18	固定資産等形成分	余剰分(不足分)
臨時利益	3		
純行政コスト	14,626		14,626
財源	14,904		14,904
本年度差額	277		277
固定資産等の変動(内部変動)		50	-50
有形固定資産等の増加		1,666	-1,666
有形固定資産等の減少		1,481	-1,481
貸付金・基金等の増加		1,256	-1,256
貸付金・基金等の減少		1,390	-1,390
資産評価差額	-0	-0	
無償所管換等	49	49	
その他	-1		
本年度純資産変動額	325		
前年度末純資産残高	25,685		
本年度末純資産残高	26,010	41,745	-15,735

(注)1年間の行政コストと財源等の収支尻を表す「本年度末純資産残高」は、下記の貸借対照表の純資産の部に計上されます。

(単位:百万円)

【貸借対照表=BS】			
資産の部		負債・純資産の部	
(1)固定資産	40,903	(1)固定負債	15,091
有形固定資産	38,461	(2)流動負債	1,760
無形固定資産	0	負債の部合計	16,851
投資その他の資産	2,442	固定資産等形成分	41,745
(2)流動資産	1,958	余剰分(不足分)	-15,735
現金預金	1,016		
その他	943	純資産の部合計	26,010
資産の部合計	42,861	負債・純資産の部合計	42,861

(注)貸借対照表の純資産の部の「固定資産等形成分」の計算

① 開始時の「純資産の部合計」の計算

⇒「資産の部合計」-「負債の部合計」……差額である

② NWの本年度末残高と照合する、BS残高の算出方法

⇒(固定資産合計-長期延滞債権+固定徴収不能引当金+投資損失引当金)+(短期貸付金+流動基金)

(注)「長期延滞債権」とは収入未済の滞納繰越分であり、その歳入金額は「余剰分」に含まれて「固定資産等形成分」に含まれないので、その算出から除外する。

③ 余剰分(不足分)の計算

⇒「純資産の部合計」-「固定資産等形成分」……差額である

Ⅳ 財務書類分析からわかること

(1) 比較分析のための前提条件

- (注1) 統一的な基準で財務書類を作成している他の5団体(可能な限り同規模)と比較し、分析比率を算出する。
- (注2) 他団体数値は、本年度未公表のため前年度から引用しているが、空欄は未公表部分である。
- (注3) 四捨五入をしたため一致しない部分があります。

・ 分析比率算定のための基礎データ

	南陽市	米沢市	上山市	長井市	新庄市	東根市
住民数:人数	28,854	77,372	27,893	24,639	32,634	47,796
面積:Km ²	160.52	548.51	240.93	214.67	222.85	206.94
可住地面積:Km ²	64.92	133.01	78.46	79.11	94.53	74.68
職員数	284	1,048	317	289	272	378
財政力指数	0.47	0.57	0.48	0.43	0.50	0.62
経常収支比率	95.6	92.6	89.7	91.0	96.5	93.0
実質地方債費比率	13.2	8.2	5.9	13.2	7.1	8.3
将来負担比率	107.6	45.1	20.0	256.1	-	-
特記事項						

・ 住民数の推移

年度	29	30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08
住民数:人数	31,666	31,400	31,001	30,565	30,148	29,703	29,274	28,854		
増減	-343	-266	-399	-436	-417	-445	-429	-420	-28,854	0

(2) 貸借対照表から見える将来の負担

本年3月末時点の財政状態を、「将来負担がどれだけ残っているのか。」という観点から見ます。

住民サービスに供されている資産総額のうち、「将来の負担」が、どの程度あるのか？

(a) 経年比較

(単位:百万円)

区分	項目	29	30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08
資産合計	一般会計等	47,187	46,502	45,451	44,505	43,448	42,959	42,825	42,861	42,861	42,861
	全体会計	71,468	70,709	69,104	68,126	66,951	66,406	66,406	66,235	66,235	66,235
	連結会計	74,627	73,983	72,709	71,798	72,650	71,632	71,632	71,480	71,480	71,480
負債合計	一般会計等	18,185	18,059	17,820	17,612	17,943	17,393	17,140	16,851	16,851	16,851
	全体会計	36,237	35,581	34,485	33,747	33,748	33,072	31,889	31,068	31,068	31,068
	連結会計	38,672	37,938	37,187	36,366	36,981	35,713	35,499	34,771	34,771	34,771
負債の割合	一般会計等	38.5%	38.8%	39.2%	39.6%	41.3%	40.5%	40.0%	39.3%	39.3%	39.3%
	全体会計	50.7%	50.3%	49.9%	49.5%	50.4%	49.8%	48.0%	46.9%	46.9%	46.9%
	連結会計	51.8%	51.3%	51.1%	50.7%	50.9%	49.9%	49.6%	48.6%	48.6%	48.6%
主な動き											

(b) 他団体比較

(単位:百万円)

区分	項目	南陽市	米沢市	上山市	長井市	新庄市	東根市
資産合計	一般会計等	42,861	121,317	49,052	42,076	63,320	64,592
	全体会計	66,235	191,018	72,517	64,088	84,506	103,312
	連結会計	71,480	201,559	76,381	72,268	90,662	109,041
負債合計	一般会計等	16,851	41,915	14,788	27,950	19,329	21,918
	全体会計	31,068	90,085	29,826	41,998	33,652	43,599
	連結会計	34,771	95,345	32,098	46,493	34,490	46,532
負債の割合	一般会計等	39.3%	34.5%	30.1%	66.4%	30.5%	33.9%
	全体会計	46.9%	47.2%	41.1%	65.5%	39.8%	42.2%
	連結会計	48.6%	47.3%	42.0%	64.3%	38.0%	42.7%

(3) 実質債務(地方債等と現金預金)の状況

(a) 経年推移

★一般会計等の実質債務

(単位:百万円)

区分	項目	29	30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08
借金	地方債等	14,385	14,301	14,074	13,804	14,108	13,571	13,355	13,025	13,025	13,025
	1年以内償還予定地方債等	1,256	1,250	1,266	1,287	1,357	1,383	1,394	1,401	1,401	1,401
	合計	15,641	15,552	15,340	15,091	15,465	14,954	14,749	14,426	14,426	14,426
貯金	固定基金	1,325	1,252	1,642	2,105	2,172	2,109	2,265	2,142	2,142	2,142
	現金預金	999	1,124	1,063	840	1,222	1,303	1,088	1,016	1,016	1,016
	財政調整基金等	1,226	1,114	878	672	712	833	914	913	913	913
	合計	3,550	3,491	3,583	3,618	4,105	4,246	4,267	4,071	4,071	4,071
差引		12,091	12,061	11,757	11,473	11,360	10,709	10,482	10,356	10,356	10,356
基準財政需要額算入見込額		12,994	12,675	12,635	12,391	12,027	11,497	11,151	10,651		
差引		-903	-614	-878	-918	-667	-788	-669	-295	10,356	10,356
主な動き											

★全体決算の実質債務

借金	地方債等	23,912	23,358	22,656	21,903	21,695	20,760	20,163	19,422	19,422	19,422
	1年以内償還予定地方債等	2,082	2,061	2,052	2,090	2,163	2,161	2,139	2,125	2,125	2,125
	合計	25,994	25,418	24,709	23,993	23,859	22,921	22,302	21,547	21,547	21,547
貯金	固定基金	1,852	1,824	2,281	2,823	3,023	3,032	3,298	3,183	3,183	3,183
	現金預金	2,388	2,664	2,293	2,171	2,573	2,647	2,415	2,292	2,292	2,292
	財政調整基金等	1,226	1,114	878	672	712	833	914	913	913	913
	合計	5,466	5,602	5,452	5,666	6,308	6,513	6,627	6,388	6,388	6,388
差引		20,527	19,816	19,257	18,327	17,551	16,408	15,675	15,159	15,159	15,159
主な動き											

★連結決算の実質債務

借金	地方債等	25,514	24,879	24,464	23,629	23,981	22,478	22,446	21,573	21,573	21,573
	1年以内償還予定地方債等	2,315	2,316	2,311	2,308	2,434	2,405	2,476	2,542	2,542	2,542
	合計	27,829	27,196	26,775	25,937	26,415	24,884	24,922	24,114	24,114	24,114
貯金	固定基金	2,220	2,216	2,626	3,181	3,444	3,382	3,667	3,567	3,567	3,567
	現金預金	2,515	2,802	2,431	2,312	2,813	2,922	2,816	2,645	2,645	2,645
	財政調整基金等	1,226	1,114	878	672	712	833	914	913	913	913
	合計	5,961	6,132	5,935	6,165	6,968	7,137	7,396	7,124	7,124	7,124
差引		21,868	21,064	20,840	19,772	19,447	17,746	17,525	16,990	16,990	16,990

(b) 他団体比較

★一般会計等の実質債務

(単位:百万円)

区分	項目	南陽市	米沢市	上山市	長井市	新庄市	東根市
借金	地方債等	13,025	33,414	10,802	23,384	15,131	16,755
	1年以内償還地方債等	1,401	3,507	1,497	1,433	1,397	2,133
	合計	14,426	36,921	12,299	24,817	16,528	18,888
貯金	固定基金	2,142	6,812	1,867	969	4,144	4,042
	現金預金	1,016	1,749	1,205	705	1,484	867
	財政調整基金等	913	1,905	1,610	332	2,198	2,544
	合計	4,071	10,466	4,682	2,006	7,826	7,453
差引		10,356	26,455	7,617	22,811	8,702	11,435

★全体決算の実質債務

借金	地方債等	19,422	59,232	19,095	30,097	20,487	25,162
	1年以内償還地方債等	2,125	5,418	2,154	2,255	2,072	2,729
	合計	21,547	64,650	21,249	32,352	22,559	27,891
貯金	固定基金	3,183	9,822	2,588	1,206	5,309	5,472
	現金預金	2,292	5,646	2,496	2,365	3,101	5,220
	財政調整基金等	913	1,905	1,610	505	2,198	2,544
	合計	6,388	17,373	6,694	4,076	10,608	13,236
差引		15,159	47,277	14,555	28,276	11,951	14,655

★連結決算の実質債務

借金	地方債等	21,573	62,038	20,905	32,937	20,744	26,552
	1年以内償還地方債等	2,542	6,343	2,323	2,707	2,072	3,005
	合計	24,114	68,381	23,228	35,644	22,816	29,557
貯金	固定基金	3,567	11,327	3,737	2,027	6,389	6,534
	現金預金	2,645	6,783	5,951	3,218	3,560	5,852
	財政調整基金等	913	1,918	1,616	509	2,206	2,551
	合計	7,124	20,028	11,304	5,754	12,155	14,937
差引		16,990	48,353	11,924	29,890	10,661	14,620

(c) 住民一人当たり実質債務(財政の健全化の指標)

(単位:円)

区分	会計区分	南陽市	米沢市	上山市	長井市	新庄市	東根市
住民一人当たり実質債務残高	一般会計等	358,894	341,920	273,079	925,809	266,654	239,246
	全体会計	525,368	611,035	521,816	1,147,612	366,213	306,616
	連結会計	588,827	624,942	427,491	1,213,117	326,684	305,883

(注) 計算式＝実質債務(臨財債を含む)÷住民数

(d) 臨時財政対策債の経年推移

決算統計33表89行近辺の2列目・4列目より

(単位:百万円)

区分	項目	29	30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08
臨時財政対策債	発行額	426	420	342	327	321	125	22	26		
	元金償還額	360	393	425	453	479	494	490	462	4,099	0
	現在高	5,712	5,739	5,656	5,530	5,372	5,003	4,535	4,099		

(単位:百万円)

区分	項目	29	30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08
臨財債 控除後 現在高	一般会計等	9,929	9,813	9,684	9,561	10,093	9,951	10,214	10,327	14,426	14,426
	全体会計	20,282	19,679	19,053	18,463	18,487	17,918	17,767	17,448	21,547	21,547
	連結会計	22,117	21,457	21,119	20,407	21,043	19,881	20,387	20,015	24,114	24,114

(4)純資産変動計算書の「本年度差額」の状況

貸借対照表のように過去から現在までの自治体の蓄積でなく、本年度の発生主義による数値です。

「本年度差額」は、民間企業の利益の計算式と同じです。

(a)経年比較

NWMより

(単位:百万円)

区分	項目	29	30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08
一般会計等	① 人件費	2,230	2,174	2,262	2,751	2,589	2,621	2,628	2,818	2,818	2,818
	② 物件費等	4,561	4,675	4,933	5,390	4,938	5,327	5,367	4,841	4,841	4,841
	③ その他の業務費用	200	184	189	205	219	194	189	157	157	157
	④ 移転費用	6,426	5,762	6,395	9,363	8,004	6,796	7,196	7,315	7,315	7,315
	経常収益	357	382	342	304	377	411	441	520	520	520
	臨時損失	8	21	22	0	1,475	14	29	18	18	18
	臨時利益	66	2	3	4	0	5	3	3	3	3
	純行政コスト	13,002	12,432	13,455	17,401	16,848	14,535	14,966	14,626	14,626	14,626
	① 税收等	9,377	9,114	9,602	9,647	10,364	10,263	10,804	10,853	10,853	10,853
	② 国県等補助金	3,274	2,718	2,987	7,078	5,067	3,929	4,141	4,051	4,051	4,051
	財源	12,651	11,832	12,589	16,725	15,432	14,192	14,945	14,904	14,904	14,904
	本年度差額	-351	-600	-866	-676	-1,417	-343	-21	277	277	277
全体	① 人件費	2,673	2,418	2,486	2,987	2,849	2,871	2,884	3,073	3,073	3,073
	② 物件費等	5,897	6,004	6,251	6,717	6,277	6,675	6,747	6,218	6,218	6,218
	③ その他の業務費用	453	454	484	495	526	438	381	408	408	408
	④ 移転費用	11,939	10,884	11,611	14,369	13,104	11,954	11,757	12,228	12,228	12,228
	経常収益	1,479	1,551	1,593	1,544	1,553	1,490	1,562	1,605	1,605	1,605
	臨時損失	197	36	105	5	1,490	27	83	63	63	63
	臨時利益	78	2	3	4	4	31	4	16	16	16
	純行政コスト	19,602	18,243	19,340	23,024	22,690	20,443	20,287	20,370	20,370	20,370
	① 税收等	13,693	11,581	12,038	12,139	12,659	12,527	12,835	13,110	13,110	13,110
	② 国県等補助金	5,653	6,511	6,732	10,700	8,819	7,726	7,922	7,852	7,852	7,852
	財源	19,346	18,092	18,769	22,839	21,478	20,253	20,758	20,963	20,963	20,963
	本年度差額	-256	-151	-570	-185	-1,212	-190	471	593	593	593
連結	① 人件費	3,555	3,231	3,472	3,935	3,823	3,812	4,290	4,622	4,622	4,622
	② 物件費等	6,863	6,776	7,142	7,535	7,424	7,672	8,137	7,782	7,782	7,782
	③ その他の業務費用	493	493	531	544	582	490	479	514	514	514
	④ 移転費用	11,352	10,136	10,856	13,518	12,064	11,337	10,952	11,213	11,213	11,213
	経常収益	2,547	2,413	2,651	2,553	2,650	2,527	3,395	3,551	3,551	3,551
	臨時損失	208	46	120	36	1,508	61	125	94	94	94
	臨時利益	107	26	43	45	29	44	5	17	17	17
	純行政コスト	19,817	18,243	19,426	22,970	22,721	20,802	20,584	20,656	20,656	20,656
	① 税收等	13,917	11,609	12,190	12,182	13,069	12,935	13,135	13,270	13,270	13,270
	② 国県等補助金	5,668	6,602	6,798	10,703	8,874	7,791	7,957	7,867	7,867	7,867
	財源	19,585	18,211	18,987	22,885	21,943	20,726	21,092	21,137	21,137	21,137
	本年度差額	-232	-32	-439	-85	-778	-76	509	481	481	481
減価償却費	一般会計等	1,551	1,560	1,570	1,543	1,457	1,485	1,491	1,481	1,481	1,481
	全体会計	2,290	2,304	2,316	2,293	2,208	2,237	2,241	2,244	2,244	2,244
	連結会計	2,447	2,473	2,491	2,460	2,424	2,436	2,502	2,555	2,555	2,555
主な動き		0									

(注)民間企業では「本年度差額」が「利益」に相当するのでプラスである必要がありますが、公会計は利益目的ではありません。

公会計の場合、減価償却費が計上されるので、構造的にほとんどの自治体でマイナスになります。

(b)自治体間比較

NWMより

(単位:百万円)

区分	項目	南陽市	米沢市	上山市	長井市	新庄市	東根市
一般会計等	純行政コスト	14,626	36,092	15,468	15,649	16,323	20,183
	財源	14,904	35,634	16,158	16,222	16,992	20,900
	本年度差額	277	-458	690	573	669	717
全体	純行政コスト	20,370	52,745	22,484	20,657	23,337	28,525
	財源	20,963	51,845	23,334	21,691	23,951	29,675
	本年度差額	593	-900	850	1,034	614	1,150
連結	純行政コスト	20,656	62,325	26,679	23,751	27,194	33,346
	財源	21,137	61,672	27,610	24,857	27,700	34,311
	本年度差額	481	-653	931	1,106	506	965

(5)純資産変動計算書の「固定資産等の変動(内部変動)」の状況

将来世代への投資は、魅力的な町造りのためには、必須ですが、将来世代に対する投資水準を表した純資産変動計算書の「固定資産等の変動」の状況がどうだったのか？少子高齢化を踏まえ、長期計画立案の上で投資を決定する必要がある。

(a)経年比較

NWMより

(単位:百万円)

区分	項目	29	30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08
一般会計等	固定資産等の変動	-1,024	-844	-955	-735	-1,606	-977	-62	50	50	50
	有形固定資産等の増加	565	919	467	552	1,237	451	1,222	1,666	1,666	1,666
	有形固定資産等の減少	1,551	1,576	1,570	1,543	2,785	1,485	1,493	1,481	1,481	1,481
	増減	-986	-657	-1,104	-991	-1,548	-1,034	-271	185	185	185
	貸付金・基金等の増加	718	943	1,159	1,213	1,234	1,268	1,605	1,256	1,256	1,256
	貸付金・基金等の減少	756	1,130	1,010	957	1,292	1,211	1,396	1,390	1,390	1,390
	増減	-38	-187	149	255	-58	57	209	-135	-135	-135
全体	固定資産等の変動	-1,154	-1,060	-1,121	-861	-1,735	-961	-43	-69	-69	-69
	有形固定資産等の増加	1,217	1,464	1,012	1,138	1,738	1,159	2,748	2,903	2,903	2,903
	有形固定資産等の減少	2,379	2,381	2,350	2,332	3,550	2,248	3,108	2,845	2,845	2,845
	増減	-1,162	-917	-1,338	-1,195	-1,812	-1,090	-361	58	58	58
	貸付金・基金等の増加	836	1,013	1,278	1,322	1,369	1,391	1,717	1,380	1,380	1,380
	貸付金・基金等の減少	828	1,156	1,061	988	1,292	1,263	1,399	1,507	1,507	1,507
	増減	8	-143	216	334	77	129	318	-127	-127	-127
連結	固定資産等の変動	-1,020	-878	-796	-940	-1,384	-1,061	22	-190	-190	-190
	有形固定資産等の増加	1,343	1,801	1,436	1,238	2,350	1,357	3,043	3,085	3,085	3,085
	有形固定資産等の減少	2,538	2,551	2,566	2,521	3,774	2,469	3,376	3,157	3,157	3,157
	増減	-1,195	-750	-1,130	-1,282	-1,424	-1,112	-333	-73	-73	-73
	貸付金・基金等の増加	877	1,039	1,269	1,338	1,400	1,336	1,773	1,401	1,401	1,401
	貸付金・基金等の減少	702	1,167	936	995	1,360	1,284	1,418	1,519	1,519	1,519
	増減	175	-128	334	342	40	51	355	-118	-118	-118
主な動き											

(b)自治体間比較

NWMより

(単位:百万円)

区分	項目	南陽市	米沢市	上山市	長井市	新庄市	東根市
一般会計等	固定資産等の変動	50	-1,830	-282	1,257	10	300
	有形固定資産等の増加	1,666	2,127	1,813	3,911	1,730	2,122
	有形固定資産等の減少	1,481	4,632	1,704	1,833	2,131	2,161
	増減	185	-2,505	109	2,078	-401	-39
	貸付金・基金等の増加	1,256	4,953	1,471	1,715	1,855	2,510
	貸付金・基金等の減少	1,390	4,278	1,862	2,536	1,444	2,171
	増減	-135	675	-391	-821	411	339
全体	固定資産等の変動	-69	5,603	-449	811	-764	410
	有形固定資産等の増加	2,903	11,479	2,419	4,321	2,171	3,330
	有形固定資産等の減少	2,845	7,001	2,572	2,699	3,110	3,431
	増減	58	4,478	-153	1,622	-939	-101
	貸付金・基金等の増加	1,380	5,703	1,593	1,764	1,636	2,707
	貸付金・基金等の減少	1,507	4,578	1,889	2,575	1,461	2,196
	増減	-127	1,125	-296	-811	175	511
連結	固定資産等の変動	-190	5,879	-564	641	-981	719
	有形固定資産等の増加	3,085	12,062	2,533	4,547	2,261	3,732
	有形固定資産等の減少	3,157	7,421	2,819	3,132	3,405	3,777
	増減	-73	4,641	-286	1,415	-1,144	-45
	貸付金・基金等の増加	1,401	6,003	1,664	1,861	1,727	3,062
	貸付金・基金等の減少	1,519	4,765	1,942	2,635	1,564	2,298
	増減	-118	1,238	-278	-774	163	764

(6) 資金収支計算書から読みとれる二つの基礎的財政収支(プライマリーバランス)の状況

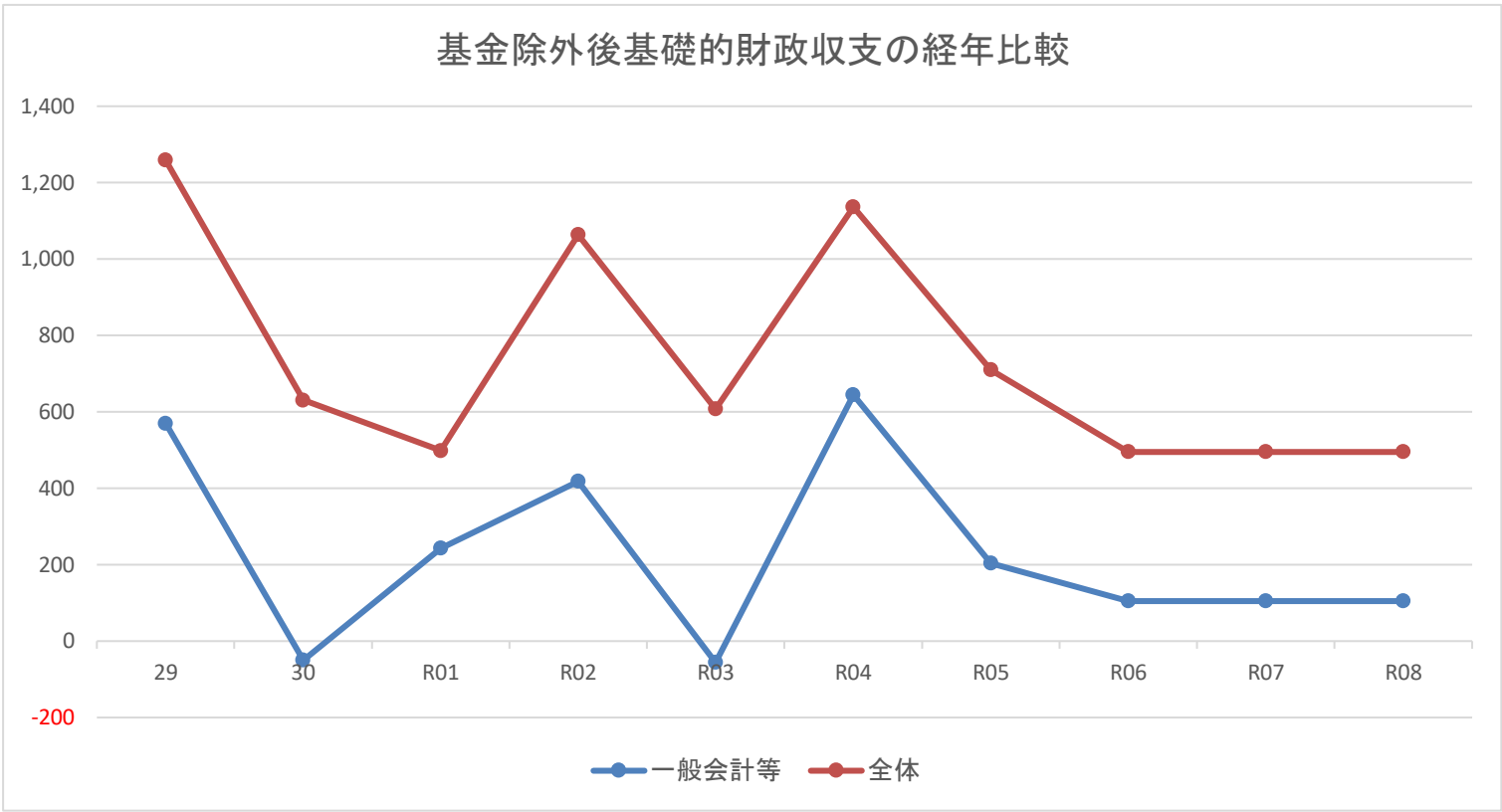
・基金への積み立てを、投資活動収支に含めるのか(①)、含めないのか(①+②)、異なった健康診断がなされる。

利払後基礎的財政収支が、ゼロ以上であれば、地方債に依存しない財政運営が行われたことになります。

(a) 経年比較

(単位:百万円)

区分	決算年度	29	30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08
一般会計等	業務活動収支	1,070	778	667	661	891	1,041	1,199	1,286	1,286	1,286
	投資活動収支	-462	-642	-572	-499	-889	-454	-1,204	-1,046	-1,046	-1,046
	利払後収支(①)	608	136	94	163	2	587	-5	240	240	240
	基金等増加(②)	-38	-187	149	255	-58	57	209	-135	-135	-135
	基金除外収支(①+②)	570	-50	243	418	-56	644	204	105	105	105
	地方債増減額加算(③)	-399	-89	-212	-249	374	-510	-206	-322	0	0
	実質単年度収支(①+②+③)	171	-140	31	169	318	134	-2	-217	105	105
全体	業務活動収支	2,007	1,862	1,344	1,738	1,954	1,951	2,234	2,150	2,150	2,150
	投資活動収支	-756	-1,089	-1,062	-1,008	-1,424	-944	-1,842	-1,528	-1,528	-1,528
	利払後収支(①)	1,251	773	282	730	530	1,008	392	622	622	622
	基金等増加(②)	8	-143	216	334	77	129	318	-127	-127	-127
	基金除外収支(①+②)	1,259	631	498	1,064	607	1,136	710	495	495	495
連結	業務活動収支	2,360	2,360	2,360	2,360	2,360	2,360	2,360	2,471	2,471	2,471
	投資活動収支	2,360	2,360	2,360	2,360	2,360	2,360	2,360	-1,716	-1,716	-1,716
	利払後収支(①)	4,720	4,720	4,720	4,720	4,720	4,720	4,720	754	754	754
	基金等増加(②)	175	-128	334	342	40	51	355	-118	-118	-118
	基金除外収支(①+②)	4,895	4,593	5,054	5,063	4,761	4,772	5,076	637	637	637
主な動き											



(注) 見にくくなるので、グラフから連結を除外しています。

(単位:年)

区分	決算年度	29	30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08
地方債等償還可能年数	一般会計等	26	114	163	93	9,608	25	-3,008	60		
	全体会計	21	33	88	33	45	23	57	35		
	連結会計	6	6	6	5	6	5	5	32		

(b) 他団体比較

(単位:百万円)

	区分	南陽市	米沢市	上山市	長井市	新庄市	東根市
一般会計等	業務支出	13,623	32,256	14,277	14,211	14,619	18,242
	業務収入	14,919	35,528	15,937	15,117	17,068	21,112
	臨時支出	10	0	0	114	0	0
	臨時収入	0	0	0	96	0	0
	業務活動収支	1,286	3,272	1,660	888	2,449	2,870
	投資活動支出	2,921	6,972	4,004	5,620	3,412	4,252
	投資活動収入	1,875	5,144	3,261	4,117	1,752	2,472
	投資活動収支	-1,046	-1,828	-743	-1,503	-1,660	-1,780
	利払後収支(①)	240	1,444	917	-615	789	1,090
	基金等増加(②)	-135	675	-391	-821	411	339
	基金除外収支(①+②)	105	2,119	526	-1,436	1,200	1,429
全体	業務支出	19,727	55,269	21,519	19,302	21,703	27,218
	業務収入	21,925	60,297	24,074	21,315	24,846	31,250
	臨時支出	47	99	0	118	2	0
	臨時収入	0	4	0	96	1	0
	業務活動収支(現役世代収支)	2,150	4,933	2,555	1,991	3,142	4,032
	投資活動支出	3,678	18,874	5,117	5,982	3,674	5,308
	投資活動収入	2,150	7,710	3,448	4,269	1,866	2,787
	投資活動収支(将来世代収支)	-1,528	-11,164	-1,669	-1,713	-1,808	-2,521
	利払後収支(①)	622	-6,231	886	278	1,334	1,511
	基金等増加(②)	-127	1,125	-296	-811	175	511
	基金除外収支(①+②)	495	-5,106	590	-533	1,509	2,022
連結	業務支出	21,598	74,280	25,892	25,339	25,176	33,978
	業務収入	24,145	80,014	28,821	27,753	28,657	38,436
	臨時支出	77	99	0	162	2	0
	臨時収入	1	5	0	117	1	0
	業務活動収支(現役世代収支)	2,471	5,640	2,929	2,369	3,480	4,458
	投資活動支出	3,878	19,211	5,380	6,440	3,938	6,126
	投資活動収入	2,162	7,358	3,525	4,577	1,970	2,944
	投資活動収支(将来世代収支)	-1,716	-11,853	-1,855	-1,863	-1,968	-3,182
	利払後収支(①)	754	-6,213	1,074	506	1,512	1,276
	基金等増加(②)	-118	1,238	-278	-774	163	764
	基金除外収支(①+②)	637	-4,975	796	-268	1,675	2,040

- ・作成方法は、歳入歳出決算書の「款・節・細節」から繰越金・地方債発行・元金償還金を除外する。
- ・「基礎的財政収支」がゼロで成長率が利子率以上の場合、地方債残高は増えないとされている。しかし、成長率が利子率以上という前提が成立しない場合には、利子償還金相当額、地方債残高は増加していくのである。
- ・財務省のHPでは、「財政収支」という言葉で表現されている。「基礎的財政収支が均衡したとしても利払い費分だけ債務残高の実額は増加してしまうのである。これを止めるためには、利払い費を含む財政収支を均衡させる必要がある。この財政収支の均衡とは、新たに借金をする額と過去の借金を返す額が同額である状態を言う。」

★ 特徴

- ・当該年度で地方債を財源とする大きな普通建設事業があると、利払後基礎的財政収支は悪化するであろう。
- ・財政調整基金等の大きな貯金を行うと、投資活動支出に含まれるので、利払後基礎的財政収支は悪化するであろう。

(c) 地方債等償還可能年数を比較(財政の健全性の指標)

- ・利払後基礎的財政収支の数値がマイナスの場合は指標として意味を成しませんが、プラスの場合、年度末の「地方債残高」から除して「地方債等償還可能年数」を算出できるので、自治体の現在の財政状態が示されます。
- ・「地方債等償還可能年数」は、自治体の現在の財政状態を表す重要な指標である。

(単位:年)

指標	会計区分	南陽市	米沢市	上山市	長井市	新庄市	東根市
地方債等償還可能年数	一般会計等	60	26	13	-40	21	17
	全体会計	35	-10	24	116	17	18
	連結会計	32	-11	22	70	15	23

(注)計算式＝地方債等残高 ÷ 利払後基礎的財政収支

★ 特徴

- ・地方債等償還可能年数は、本年度の収支が続くと仮定して、地方債等残高がゼロになる必要年数である。
- ・他団体の連結の平均的な年数は、当事務所のデータによれば、住民数20万人台の自治体では、概ね20年から40年という数値の財政状態のところが多くなっている。
- ・住民数50万人以上の自治体では、利払後基礎的財政収支、地方債等償還可能年数がマイナスで、地方債残高が増えていくという状況のところが多くなっている。

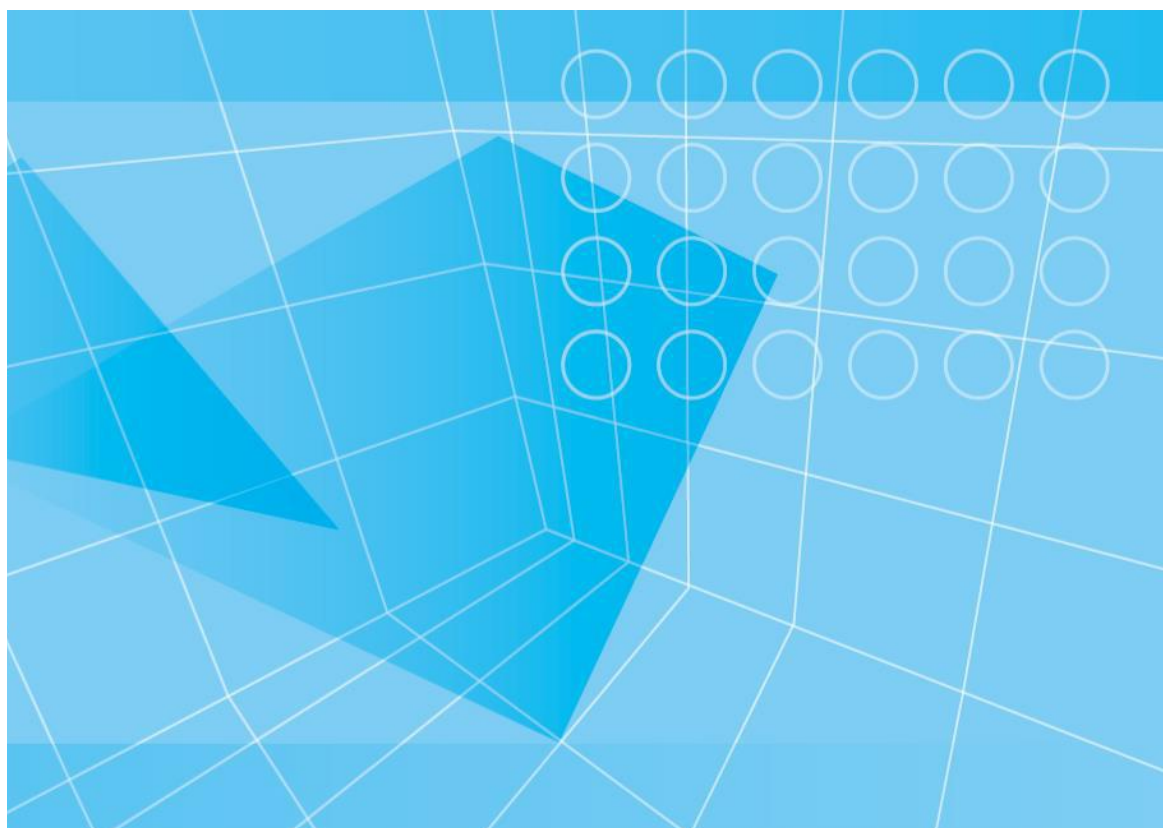
(7)歳入歳出決算書の経年データ

歳入歳出決算書より

(単位:百万円)

款 or 節		29	30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08
収入済 額	市町村税	3,600	3,595	3,730	3,618	3,452	3,581	3,733	3,600		
	地方消費税交付金	564	608	571	700	757	774	770	789		
	地方交付税	4,266	4,135	4,087	4,163	4,823	4,694	4,922	4,871		
	使用料及び手数料	168	161	144	94	102	113	126	119		
	国庫支出金	1,636	1,686	1,955	5,847	3,801	2,705	2,822	2,781		
	都道府県支出金	1,639	1,032	1,032	1,231	1,266	1,224	1,318	1,270		
	その他の款	1,281	1,037	1,527	1,394	1,655	1,543	1,704	2,007	0	0
	小計(①)	13,154	12,254	13,046	17,047	15,856	14,634	15,395	15,437	0	0
	繰越金	762	968	956	963	818	1,195	1,270	1,058		
	繰入金	662	1,095	956	921	1,091	1,173	1,348	1,354		
	地方債発行	853	1,166	1,098	955	1,663	846	1,178	1,072		
合計(②)		15,431	15,483	16,056	19,886	19,428	17,848	19,191	18,921		
支出済 額＝節	需用費	299	304	307	315	337	370	372	382		
	委託料	1,918	1,814	1,758	2,054	2,193	2,082	2,086	2,565		
	工事請負費	625	1,149	988	894	1,403	878	1,593	1,462		
	負担金及び補助交付金	2,697	1,884	2,404	5,584	3,614	2,758	3,057	3,109		
	扶助費	2,507	2,214	2,294	2,337	2,747	2,354	2,429	2,501		
	繰出金	1,644	1,622	1,670	1,632	1,608	1,600	1,594	1,614		
	その他の節	2,758	3,199	3,202	3,714	3,759	3,865	3,959	3,608	0	0
	小計(③)	12,448	12,186	12,623	16,530	15,661	13,907	15,090	15,241	0	0
	積立金	625	890	1,106	1,171	1,193	1,226	1,574	1,225		
	地方債費	1,391	1,382	1,364	1,367	1,379	1,445	1,469	1,482		
	合計(④)	14,464	14,458	15,093	19,068	18,233	16,578	18,133	17,948		
実質収 支に関 する調 書より 記入	歳入歳出差引額(②－④)	967	1,025	963	818	1,195	1,270	1,058	973	0	0
	翌年度へ繰越すべき財源	32	104	22	20	12	100	36	18		
	実質収支額	935	921	941	798	1,183	1,170	1,022	955	0	0
	繰越金	-762	-968	-956	-963	-818	-1,195	-1,270	-1,058	0	0
	単年度収支	173	-47	-15	-165	365	-25	-248	-103	0	0
	基金増減額	-38	-187	149	255	-58	57	209	-135	-135	-135
	実質単年度収支額	211	140	-164	-420	423	-82	-457	32	135	135
	基金繰入額	0	0	0	0	0	0	0	0		
	翌年度繰越金	935	921	941	798	1,183	1,170	1,022	955	0	0
支出 済額＝款項	議会費	174	172	168	164	162	168	175	164		
	総務費	2,261	2,569	3,021	6,124	3,783	3,372	4,292	3,813		
	民生費	4,923	4,956	5,122	5,015	6,449	5,285	5,495	5,392		
	衛生費	634	611	701	761	1,052	1,032	1,149	1,172		
	労働費	56	56	57	49	48	77	41	41		
	農林水産業費	894	456	420	450	488	562	628	552		
	商工費	338	314	287	910	674	560	591	427		
	土木費	1,750	1,607	1,669	1,723	1,968	1,699	1,955	2,339		
	消防費	690	643	604	640	639	643	659	765		
	教育費	1,345	1,687	1,669	1,706	1,436	1,721	1,676	1,791		
	災害復旧費	8	5	11	159	155	14	3	10		
	公債費	1,391	1,382	1,364	1,367	1,379	1,445	1,469	1,482	0	0
	諸支出金	0	0	0	0	0	0	0	0		
	予備費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	14,464	14,458	15,093	19,068	18,233	16,578	18,133	17,948	0	0

令和 6 年度 南陽市の財務書類 【分析編】



南陽市財政課

令和6年度決算に係る「統一的な基準による財務書類」について、以下の各表から抽出したデータを活用し、分析を行いました。

◆貸借対照表

貸借対照表は、基準日時点において、地方公共団体が住民サービスを提供するために、どれほどの資産や債務を有するかについて情報を示すものです。資産と財源となる負債及び純資産の合計は必ず一致します。負債は、将来世代の負担を意味し、純資産は、現在までの世代の負担ととらえます。

資産規模がどの程度あり（資産合計）、それに対する将来世代の負担（負債合計）が何%あるのか、また、一般会計等、全体会計、連結会計のそれぞれの区分ごとにどの程度あるのかを読み取ることができます。

◆行政コスト計算書

行政コスト計算書は、行政コストという経費明細という位置付けにあり、発生主義数値を含んだ現役世代に対する資源の配分の状況を示しています。行政コストの面では、人にかかるコストである人件費、物にかかるコストである物件費等、移転的な支出である移転費用等といった区分が設けてあります。

◆純資産変動計算書

貸借対照表の「純資産の部」に計上されている各数値が1年間でどのように変動したかを表している計算書です。

一会計期間に、税収と補助金収入を財源として、現役世代に対してどの程度資源配分したのか、また、将来世代に対してどの程度資源配分したのか、つまり発生主義数値ではあるが住民から拠出された税収等が、どのように配分されたのかということを表しています。

◆資金収支計算書

資金収支計算書は、「業務活動収支」、「投資活動収支」、「財務活動収支」という表示区分を設けて収支状況を明示しています。

業務活動収支：地方公共団体の経営活動に伴い、継続的に発生する資金収支

投資活動収支：地方公共団体の将来世代に対する投資活動に伴い発生する資金収支

財務活動収支：地方公共団体の負債の管理に係る資金収支（負債の発行及び償還）

業務活動収支は税金と補助金収入を財源として、現役世代に対してどの程度資源配分したのかを表します。業務活動収支と投資活動収支を合算して、プラスの場合借金が減少したことを意味し、マイナスの場合借金が増加したことを意味します。

3つの収支について、主なタイプの例示（赤色矢印の方向が資金の流れを示します。）

タイプ例	図解	汲み取ることのできる内容
健全タイプ		◆ 経常的に発生する業務活動により獲得した資金を将来のために投資 ◆ それでもなお余る資金は借金の返済（市債の償還）に充てる ◆ 公共資産への投資と借入金の返済を業務活動収支の範囲内により行っているため、健全といえる
積極投資タイプ		◆ 経常的に発生する業務活動により獲得した資金を将来のために投資 ◆ かつ、借金（市債の発行）をしてその資金を投資に充てている ◆ 業務活動収支の範囲を超えて（将来負担のリスクをとって）積極的に公共投資を行っている
債務圧縮タイプ		◆ 経常的に発生する業務活動により獲得した資金を借金の返済（市債の償還）に充てている ◆ かつ、公共資産や出資を売却する等して得た資金を借金の返済（市債の償還）に充てている ◆ 債務が減少しているため、将来リスクは減少しているが、必要な投資を行う余裕がない

連結対象とした会計の範囲

連結

全体

一般会計等[2会計]

一般会計、育英事業特別会計

特別会計[6会計]

水道事業会計、下水道事業会計、国民健康保険（事業勘定）特別会計、国民健康保険（直営診療勘定）特別会計、介護保険特別会計、後期高齢者医療特別会計

外郭団体[3会計]

置賜広域行政事務組合、置賜広域病院企業団
土地開発公社

◎財務書類分析の視点

総務省から示された以下の分析の視点を参考に分析を行いました。

【分析の視点】	【住民のニーズ】	【指 標】
資産形成度	将来世代に残る資産はどのくらいあるのか	◆住民一人当たり資産額 ◆有形固定資産の行政目的別割合 ◆歳入額対資産比率 ◆有形固定資産減価償却率（資産老朽化比率）
世代間公平性	将来世代と現世代との負担の分担は適切か	◆純資産比率 ◆社会資本等形成の世代間負担比率（将来世代負担比率） 【関係指標】 将来負担比率
持続可能性（健全性）	財政に持続可能性があるか（どのくらい借金があるか）	◆住民一人当たり負債額 ◆基礎的財政収支 ◆債務償還可能年数 【関係指標】 健全化判断比率
効 率 性	行政サービスは効率的に提供されているか	◆住民一人当たり行政コスト ◆性質別・行政目的別行政コスト
弾 力 性	資産形成を行う余裕はどのくらいあるか	◆行政コスト対税収等比率 【関係指標】 経常収支比率 実質公債費比率
自 律 性	歳入はどのくらい税金等で賄われているか（受益者負担の水準はどうなっているか）	◆受益者負担の割合 【関係指標】 財政力指数

1 資産形成度 将来世代に残る資産はどのくらいあるのか

資産形成度は、「将来世代に残る資産はどのくらいあるのか」といった住民の関心に基づくものです。

資産に関する情報は、歳入歳出決算書に添付される「財産に関する調書」においても、公有財産、物品、債権、及び基金の種別により記載されています。しかし、土地及び建物並びに山林は、地積や面積で測定され、動産も個数で表示されるなど、市が保有する資産の価値に関する情報を得ることができません。

貸借対照表（BS）は、資産の部において市の保有する資産のストック情報を一覧表示しており、これを「市民一人当たり資産額」や「有形固定資産の行政目的別割合」、「歳入額対資産比率」、「有形固定資産減価償却率」といった指標を用いてさらに分析することで新たな情報を得ることができます。

市民1人当たり資産額		令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
資産総額 住民基本台帳人口	一般	145.6万円	144.1万円	144.6万円	146.3万円	148.5万円
	全体	222.9万円	222.1万円	223.9万円	226.8万円	229.6万円
	連結	234.9万円	241.0万円	238.2万円	244.7万円	247.7万円

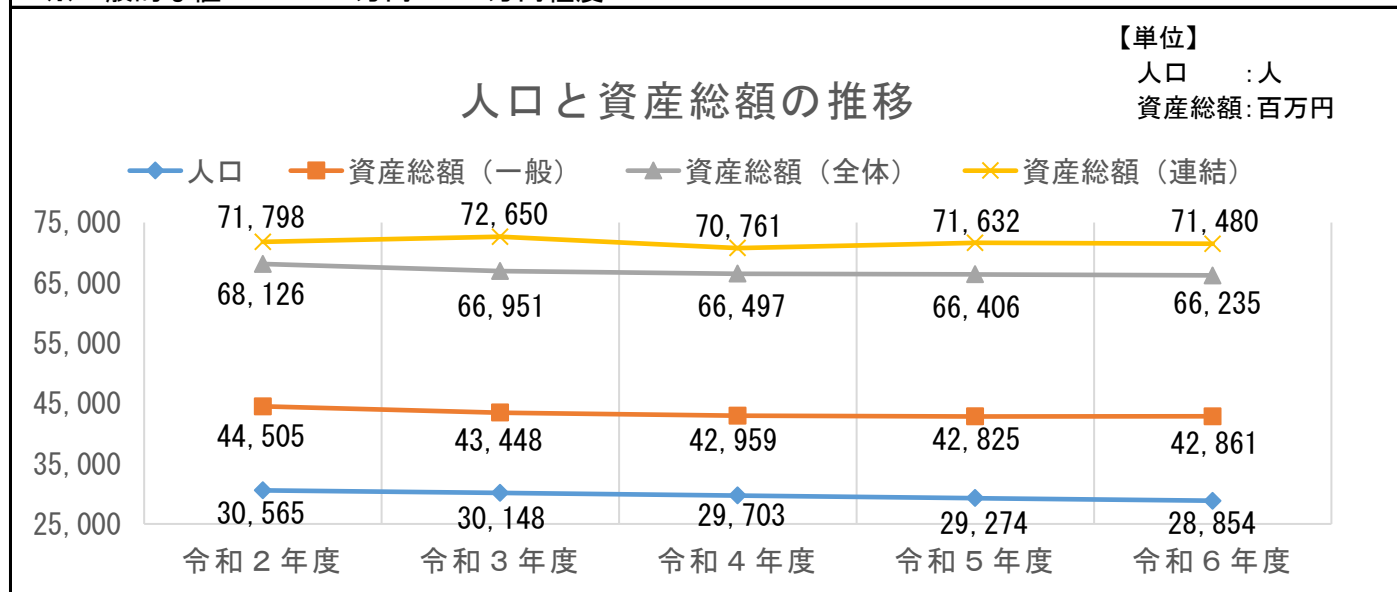
資産総額を住民基本台帳人口で除することにより、市民1人当たりの資産額を算出します。類似団体との比較に利用します。

令和2年から令和6年にかけて、一般会計等においてゆるやかな増加がみられます。ただし、これは、資産が増加しているのではなく、資産総額の減少を上回る割合で住民基本台帳人口が減少しているためです。一般会計等における資産の減少要因としては、有形固定資産が2,038百万円（R2：40,499百万円 → R6：38,461百万円）減少しており、建物や工作物の資産額の増加以上に、建物等の老朽化により減価償却累計額が上回っていることが挙げられます。また、令和6年には、道路、市庁舎の非常用発電機、消防団ポンプ庫、防火水槽、消火栓、赤湯幼稚園と梨郷児童館の冷房施設、宮内地区交流センター、社会教育施設のLED照明設備などが新たに資産として計上されました。連結の令和6年の資産の増額は、千代田クリーンセンターの2号炉ボイラー水管更新工事などが新たに計上されたことによります。

【資産総額】	R2	R6	R2～R6増減額
一般	44,505百万円	42,861百万円	▲1,644百万円
全体	68,126百万円	66,235百万円	▲1,891百万円
連結	71,798百万円	71,480百万円	▲318百万円

【住民基本台帳人口】	令和2年	令和6年	増減額
	30,565人	28,854人	（▲1,711人）

※一般的な値：100万円～300万円程度



歳入額対資産比率		令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
資産総額 収入総額	一般	2.4年	2.3年	2.6年	2.4年	2.4年
	全体	2.6年	2.6年	2.8年	2.6年	2.6年
	連結	2.6年	2.6年	2.7年	2.6年	2.6年

資金収支計算書の収入総額に対する資産総額の割合をいいます。これまでに形成された資産が収入の何年分に相当するかを表し、地方公共団体の資産形成の度合いを測ることができます。

令和2年から令和6年にかけて、一般、全体、連結ともほぼ同じ値となっています。これは、資産の減少（分子の減少）と併せて、収入も減少（分母の減少）したことによるものです。一般会計等においては、令和2年と比較すると資産総額は16億円の減、収入総額は11億円の減となっており、歳入額対資産比率は同じ値となっています。比較対象の令和2年は、新型コロナウイルス感染症対策事業を実施した年であり、収入総額の変動の主な要因は、税收等の増（+14億円）よりも国県等補助金収入が大きく減（▲30億円）となったためです。

南陽市は、一般的な団体の平均より低い数値となっています。この歳入額対資産比率が高ければ、社会資本の整備に重点を置いてきたことを表しますが、歳入規模に対して過度の社会資本整備を行っている場合などは、今後それらの維持のための負担が大きくなり、将来の財政運営を圧迫するおそれがあります。必ずしも高ければよいものではないことに留意する必要があります。

※一般的な値：3.0年～7.0年程度

有形固定資産減価償却率		令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
償却資産の減価償却累計額 償却資産の取得価額等	一般	56.2%	57.1%	58.7%	60.0%	60.5%
	全体	49.7%	50.7%	52.2%	53.3%	54.2%
	連結	50.4%	52.5%	53.2%	54.2%	55.2%

有形固定資産のうち償却資産の取得価額等に対する減価償却累計額の割合をいいます。

耐用年数に対して資産の取得からどの程度経過しているのかを表し、資産の老朽化のおおよその度合いを測ることができます。

一般的に数値が高いほど資産の老朽化が進んでいるといえます。本市においては公共施設を長く維持・活用し、トータルコストを抑えていくため、施設の長寿命化に取り組んでいます。そのため、この数値は今後も上昇していくことが予想されます。

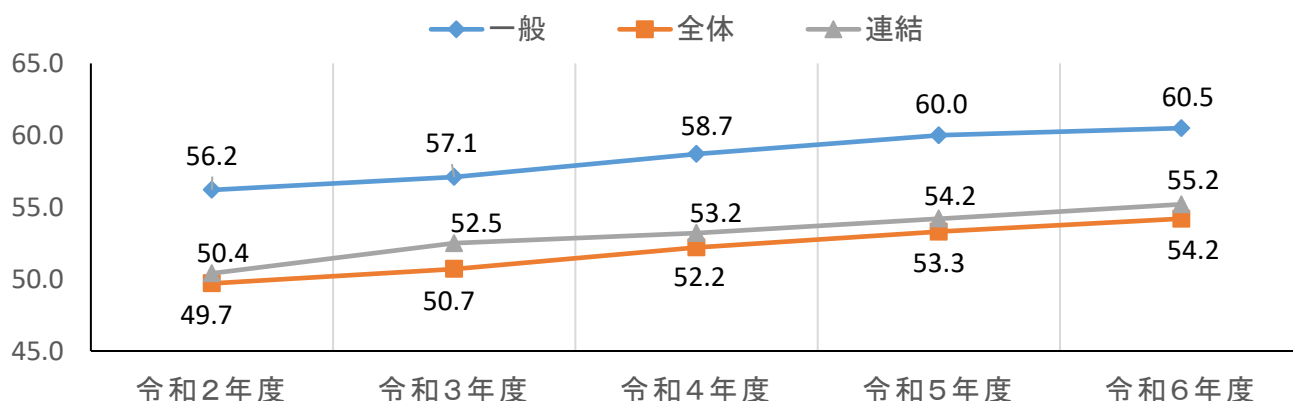
令和2年から令和6年にかけて、一般4.3ポイント、全体4.5ポイント、連結4.8ポイントそれぞれ増加しています。これは、新たに取得した資産の額に比較して減価償却額が大きいことを示しています。

本市の有形固定資産減価償却率は、他団体と比較して極端に高い数値を示しているわけではありません。しかしながら、市の保有する4割以上の公共施設が築30年を経過するなど、全体としては施設の老朽化が進んでいる状況にあります。

※一般的な値：35%～50%程度

有形固定資産減価償却率の推移

【単位 %】



2 世代間公平性

将来世代と現世代との負担の分担は適切か

世代間公平性は、「将来世代と現世代との負担の分担は適切か」といった住民の関心に基づくものです。これは、貸借対照表上の資産、負債及び純資産の対比によって明らかにされます。

世代間公平性を表す指標としては、地方財政健全化法における「将来負担比率」もありますが、貸借対照表により、財政運営の結果として、資産形成における将来世代と現世代までの負担のバランスが適切に保たれているのか、どのように推移しているのかを端的に把握することが可能となります。「純資産比率」や「社会資本等形成の世代間負担比率（将来世代負担比率）」が分析指標として挙げられます。

純資産比率		令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
$\frac{\text{純資産総額}}{\text{資産総額}}$	一般	60.4%	58.7%	59.5%	60.0%	60.7%
	全体	50.5%	49.6%	50.3%	52.0%	53.1%
	連結	49.3%	49.1%	49.5%	50.4%	51.4%

資産総額のうち返済義務のない純資産がどれくらいの割合かを表します。

純資産の変動は、将来世代と現世代の間で負担の割合が変動したことを意味します。

企業会計でいう自己資本比率に相当し、この比率が高いほど財政状況が健全であるといえます。令和2年から令和6年にかけて、一般は0.3ポイントの増、全体は2.6ポイントの増、連結は2.1ポイントの増となっています。一般会計等においては、純資産総額が減少していますが、それ以上に資産総額が減少しているため、比率を押し上げる形となっています。令和3年は、旧ハイジアパーク南陽の売却などにより、一時的に数値が大きく減少しています。

なお、純資産は次の式において表すことができます。 純資産 = 資産 - 負債

【資産総額】

前述のとおり

【純資産総額】

	R2	R6	R2～R6増減額
一般	26,893百万円	26,010百万円	▲883百万円
全体	34,378百万円	35,167百万円	789百万円
連結	35,432百万円	36,709百万円	1,277百万円

純資産額の増加は、現世代が自らの負担によって将来世代も利用することができる資源を蓄積したことを表しています。反対に純資産の減少は、将来世代が利用することができた資源を現世代が消費して便益を受ける反面、将来世代に負担が先送りされたことを表します。

全体、連結の値が低いのは、水道事業及び下水道事業の仕組みが、将来の使用料収入で回収することを前提としていることや、地方債の償還年限が一般会計等よりも長いことが要因です。

※一般的な値 : 50%～90%程度

資産	負債
	純資産

資産	負債
	純資産

資産	負債
	純資産

資産	負債
▲純資産	

将来世代に資産を残している

将来世代に負担を先送りしている

将来世代負担比率		令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
地方債＋1年内償還予定地方債	一般	37.2%	39.7%	39.0%	38.6%	37.5%
有形固定資産＋無形固定資産	全体	38.8%	39.7%	38.6%	37.7%	36.3%
	連結	40.0%	40.7%	39.5%	39.3%	38.0%

社会資本等について地方債により形成した割合をいいます。数値が大きいほど社会資本等の形成に係る将来世代の負担の比重が大きくなります。

令和2年から令和6年にかけて、一般は0.3ポイント増加しましたが、全体は2.5ポイント、連結は2.0ポイントそれぞれ減少しています。これは、全体、連結会計において、長期的に見て、将来世代の負担が減少傾向にあることを表しています。数値が減少した主な要因は、地方債の減少です。

令和6年一般会計等においては、道路整備事業のほか、防災拠点避難地整備事業、宮内地区交流センター整備事業、社会教育施設LED化等推進事業などで、新たに10.7億円の地方債を発行しています。

地方債の発行には後年度の財政負担を伴いますが、「歳入・歳出の年度間調整」や「世代間公平のための調整」といった調整機能が備わるため、適切に発行されれば安定的な行政サービスの提供に大きく役立つものとされています。これからも本市の現状を正確に把握し、適正な発行額となるよう努めていきます。

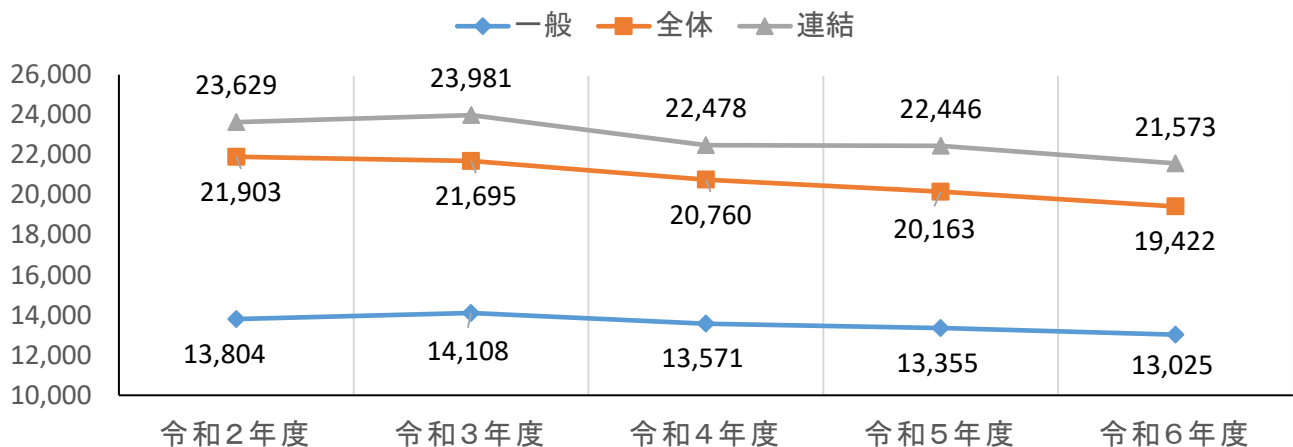
【地方債の額】

	R2	R6	R2～R6増減額
一般	13,804百万円	13,025百万円	▲779百万円
全体	21,903百万円	19,422百万円	▲2,481百万円
連結	23,629百万円	21,573百万円	▲2,056百万円

※一般的な値 : 10%～40%程度

地方債の推移

【単位 百万円】



(注) 上のグラフは「1年内償還予定地方債」を除いた地方債の推移を表しています。

3 持続可能性（健全性）

財政に持続可能性があるか

持続可能性（健全性）は、「財政に持続可能性があるか（どのくらい借金があるか）」という住民の関心に基づくものであり、財政運営に関する本質的な視点といえます。これに対しては、第一に、地方財政健全化法の「健全化判断比率」（実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率及び将来負担比率）による分析が行われますが、これに加えて財務書類も有用な情報を提供することができます。

市の負債に関する情報については、現行の「予算に関する説明書」においても、債務負担行為額及び地方債現在高についてそれぞれ調書が添付されていますが、貸借対照表においては、このほかに退職手当引当金や未払金など、発生主義により全ての負債を捉えることが可能となります。

財政の持続可能性に関する指標としては、「市民一人当たり負債額」、「基礎的財政収支（プライマリーバランス）」、「債務償還可能年数」があります。

市民1人当たり負債額		令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
負債総額 住民基本台帳人口	一般	57.6万円	59.5万円	58.6万円	58.6万円	58.4万円
	全体	110.4万円	111.9万円	111.3万円	108.9万円	107.7万円
	連結	119.0万円	122.7万円	120.2万円	121.3万円	120.5万円

人口1人当たりの負債総額をいいます。類似団体との比較に利用します。

令和2年から令和6年にかけて、一般は0.8万円の増、全体は2.7万円の減、連結は1.5万円の増となっています。これは、一般会計等においては、負債のうち地方債（地方債と1年内償還予定地方債の合計額）が減少しているものの、それ以上に人口が減少したことによります。令和6年一般会計等においては、市債発行額10.7億円に対し、元金償還額14.8億円となっており、前年度と比較すると市債残高が3.2億円減少しています。（財務活動収支▲3.2億円）

【地方債の額】
前述のとおり

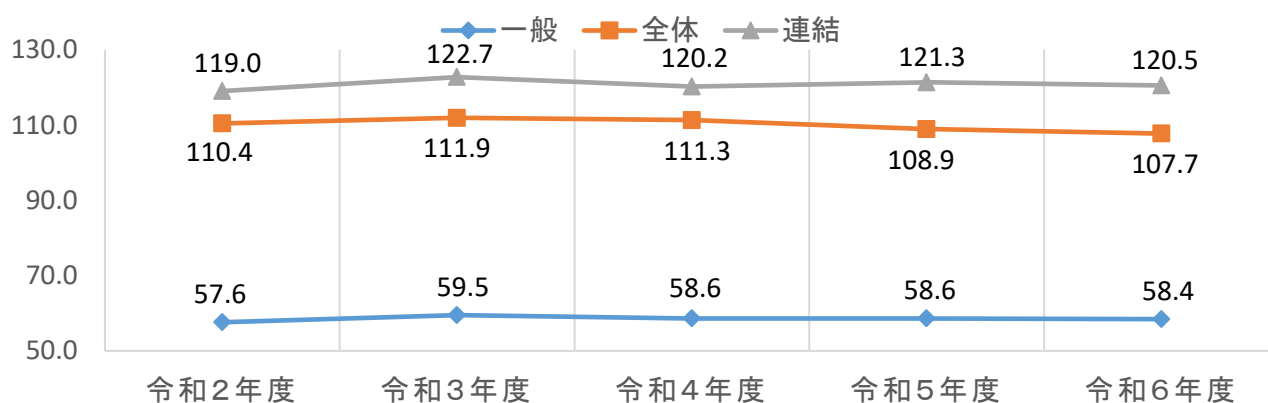
【1年内償還予定地方債の額】

	R2	R6	R2～R6増減額
一般	1,287百万円	1,401百万円	114百万円
全体	2,090百万円	2,125百万円	35百万円
連結	2,308百万円	2,542百万円	234百万円

※一般的な値：30万円～100万円程度

市民1人当たり負債額の推移

【単位 万円】



基礎的財政収支 (プライマリーバランス)		令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
業務活動収支－支払利息支出(▲) ＋投資活動収支	一般	2.6億円	0.9億円	6.8億円	0.8億円	3.3億円
	全体	9.7億円	7.5億円	12.1億円	5.8億円	8.1億円
	連結	11.6億円	9.0億円	13.6億円	6.7億円	9.6億円
支払利息支出を除く業務活動収支及び投資活動収支の合計額をいいます。 地方債等の元利償還額を除いた歳出と地方債等発行収入を除いた歳入のバランスを表します。						
各年度ともにプラスの数値を確保しており、公債費に依存しない財政運営が行われたことを示しています。 この数値が均衡（0に近い。）している場合には、経済成長率が長期金利を下回らない限り経済規模に対する地方債の比率は増加せず、持続可能な財政運営であるといえます。反対にこの数値が大きくマイナスになると、その年の経費が市債に依存しないと賄えなかったことを意味し、そのままの財政運営を継続していくことは困難になります。						

債務償還可能年数		令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
地方債＋1年内償還予定地方債 業務収入－業務支出	一般	22.8年	14.8年	14.2年	12.3年	11.1年
	全体	13.8年	11.3年	11.7年	10.0年	9.8年
	連結	13.3年	9.7年	10.9年	9.3年	9.5年
業務活動収支（臨時収支を除く。）に対する地方債残高の割合をいいます。 地方債の償還に要する年数を表し、年数が短いほど債務償還能力があるといえます。						
令和2年から令和6年にかけて、一般、全体、連結ともそれぞれ減少しています。令和6年一般会計等においては、令和2年と比較し11.7ポイント数値が減少していますが、これは分子である「地方債残高（地方債と1年内償還予定地方債の合計額）」が6.6億円（150.9億円→144.3億円）減少し、分母である「業務活動収支（臨時収支を除く）」が6.4億円（6.6億円→13.0億円）増加したことによります。業務支出及び業務収入のうち、数値が大きく変動した項目は以下の項目です。 業務支出＞補助金等支出：▲2,264百万円（5,374百万円→3,110百万円） 業務収入＞税収等収入：1,448百万円（9,393百万円→10,841百万円） 国県等補助金収入：▲3,447百万円（7,008百万円→3,561百万円） 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策事業により、特に補助金等支出や国県等補助金収入が大きくなっています。 債務償還可能年数は、償還財源上限額を全て債務の償還に充当した場合に、何年で現在の債務を償還できるかを表す理論値です。債務の償還原資を経常的な業務活動からどれだけ確保できているかということは、債務償還能力を把握する上で重要な視点のひとつといえます。 ※一般的な値：3年～9年程度 (注)「自治体担当者のための公会計の統一的な基準による財務書類の作成実務」落合幸隆著（株）ぎょうせいにおいては、債務償還可能年数の計算式を以下のとおり示していますが、他市では上記の計算式を採用しています。 本報告においては、他市との比較を容易にするため上記の計算式で分析を行いました。 【計算式】（将来負担額－充当可能基金残高）÷（業務収入等－業務支出）						

4 効率性 行政サービスは効率的に提供されているか

効率性は、「行政サービスは効率的に提供されているか」という住民の関心に基づくものです。地方自治法においても、第2条第14項において「地方公共団体は、その事務を処理するに当たっては、住民の福祉の増進に努めるとともに、最少の経費で最大の効果を挙げるようにしなければならない」とされています。財政の持続可能性と並んで住民の関心が高い視点といえます。

行政の効率性を表す「行政コスト計算書」は、市の行政活動に係る人件費や物件費等の費用を発生主義に基づきフルコストとして表示するものであり、行政の効率化を目指す際に不可欠な情報を一括して提供するものとなっています。

行政コスト計算書においては、「住民一人当たり行政コスト」を用いることにより、効率性の度合いを定量的に測定することが可能となります。

住民1人当たり行政コスト		令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
純行政コスト 住民基本台帳人口	一般	56.9万円	55.9万円	48.9万円	51.1万円	50.7万円
	全体	75.3万円	75.3万円	68.8万円	69.3万円	70.6万円
	連結	75.2万円	75.4万円	70.0万円	70.3万円	71.6万円

住民1人当たりの行政コストをいいます。

類似団体との比較に利用することで、地方公共団体の行政活動の効率性を比較することができます。

令和2年から令和6年にかけて、一般は6.2万円、全体は4.7万円、連結は3.6万円減少しています。これは、住民基本台帳人口の減少以上に、純行政コストが減少したことによるものです。

【純行政コストの額】

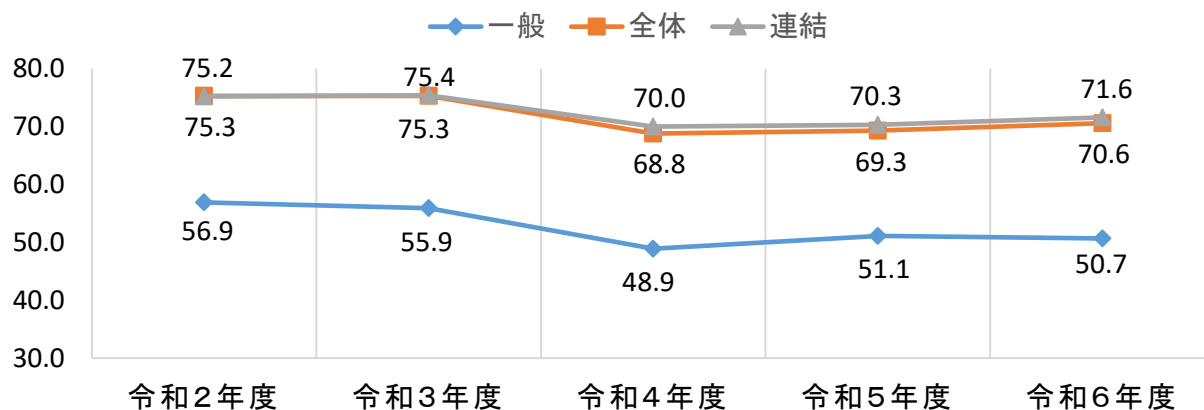
	R2	R6	R2～R6 増減額
一般	17,401百万円	14,626百万円	▲2,772百万円
全体	23,024百万円	20,370百万円	▲2,654百万円
連結	22,970百万円	20,656百万円	▲2,314百万円

令和2年、3年は数値が大きく上昇しました。これは一般会計等において、新型コロナウイルス感染症対策事業や物価高騰対策事業を実施したためです。令和6年は、令和5年に実施した全市民応援クーポン事業をはじめとする「緊急経済対策事業」、「物価高騰対応生活支援給付金給付事業」、「電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金給付事業」などは減額となりましたが、大きな事業としては「宮内地区交流センター整備事業」や「社会教育施設LED化等推進事業」などを実施しました。

※ 住民1人当たり行政コストについては、地方公共団体の人口や面積、行政権能等により異なります。一概に他団体との比較を行うことは適切ではないため、比較する際には類似団体で行うこととされています。

住民1人当たり行政コストの推移

【単位 万円】



5 弾力性 資産形成を行う余裕はどのくらいあるか

弾力性は「資産形成等を行う余裕はどのくらいあるか」といった住民の関心に基づくものです。

財政の弾力性については、一般に、「経常収支比率」等が用いられますが、財務書類においても弾力性の分析が可能となっています。「純資産変動計算書」において、市の資産形成を伴わない行政活動に係る行政コストに対して地方税、地方交付税等の当該年度の一般財源等がどれだけ充当されているか「行政コスト対税収等比率」を示すことができます。

これは、市がインフラ資産の形成や施設の建設といった資産形成を行う財源的余裕度がどれだけあるかを示しています。

行政コスト対税収等比率		令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年
純経常行政コスト 財源	一般	104.1%	99.6%	102.4%	100.0%	98.0%
	全体	100.8%	98.7%	101.0%	97.4%	97.0%
	連結	100.4%	96.8%	100.3%	97.0%	97.4%

資産形成を伴わない行政活動に係る行政コストに対して地方税、地方交付税等の当該年度の一般財源等がどれだけ充当されているかを示します。

令和 2 年から令和 6 年にかけて、一般は6.1ポイントの減少、全体は3.8ポイント、連結は3.0ポイントそれぞれ減少しています。令和 6 年一般会計等においては、令和 5 年と比較すると純経常行政コストは3.3億円の減、財源は0.4億円の減となっており、数値は2.0ポイント減少しています。この比率が100%に近づくほど資産形成の余裕度が低いといえ、さらに100%を上回ると、過去に蓄積した資産（基金など）が取り崩されたことを表します。

基金取崩収入(令和 6 年一般会計等) : 1,349百万円
基金積立金支出(令和 6 年一般会計等) : 1,225百万円

【純経常行政コストの額】

	R 2	R 6	R 2 ~ R 6 増減額
一般	17,405百万円	14,611百万円	▲2,794百万円
全体	23,024百万円	20,323百万円	▲2,701百万円
連結	22,979百万円	20,579百万円	▲2,400百万円

【財源の額】

	R 2	R 6	R 2 ~ R 6 増減額
一般	16,725百万円	14,904百万円	▲1,821百万円
全体	22,839百万円	20,963百万円	▲1,876百万円
連結	22,885百万円	21,137百万円	▲1,748百万円

※平均的な値 : 90% ~ 110%程度

6 自律性 行政コストに対する受益者の負担はどのくらいあるか

自立性は「歳入はどのくらい税収等で賄われているか（受益者負担の水準はどうなっているか）」といった住民の関心に基づいています。

これは市の財政構造の自律性に関するものであり、決算統計における「歳入内訳」や「財政力指数」が関連しますが、財務書類についても、「行政コスト計算書」において使用料・手数料などの受益者負担の割合を算出することが可能であるため、これを受益者負担水準の適正さの判断指標として用いることができます。

受益者負担の割合		令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
経常収益 経常費用	一般	1.7%	2.4%	2.8%	2.9%	3.4%
	全体	6.3%	6.8%	6.8%	7.2%	7.3%
	連結	10.0%	11.1%	10.8%	14.2%	14.7%

経常費用に対する使用料及び手数料を主とする経常収益の割合をいいます。
受益者が負担しない部分については、税、地方交付税及び補助金等により賄われます。

令和2年から令和6年にかけて、一般、全体、連結ともに増加しています。令和2年で大きく数値が減少しているのは、一般会計等において前述の新型コロナウイルス感染症対策事業を実施したことにより経常費用が増加したためです。令和6年は、経常費用が令和5年と比較して249百万円減少したため、数値が上昇しています。

一般的に病院、ガス、上下水道事業を行う地方公共団体は、受益者負担比率の数値が高くなる傾向があります。

【経常収益の額】

	R2	R3	R4	R5	R6
一般	304百万円	377百万円	411百万円	441百万円	520百万円
全体	1,544百万円	1,553百万円	1,490百万円	1,562百万円	1,605百万円
連結	2,553百万円	2,650百万円	2,527百万円	3,395百万円	3,551百万円

【経常費用の額】

	R2	R3	R4	R5	R6
一般	17,710百万円	15,750百万円	14,938百万円	15,380百万円	15,131百万円
全体	24,568百万円	22,756百万円	21,937百万円	21,770百万円	21,928百万円
連結	25,532百万円	23,892百万円	23,312百万円	23,859百万円	24,131百万円

※平均的な値：2%～8%程度

(注) 「自治体担当者のための公会計の統一的な基準による財務書類の作成実務」落合幸隆著（株）ぎょうせい においては、受益者負担の割合の計算式を以下のとおり示していますが、他市では上記の計算式を採用しています。

本報告においては、他市との比較を容易にするため上記の計算式で分析を行いました。

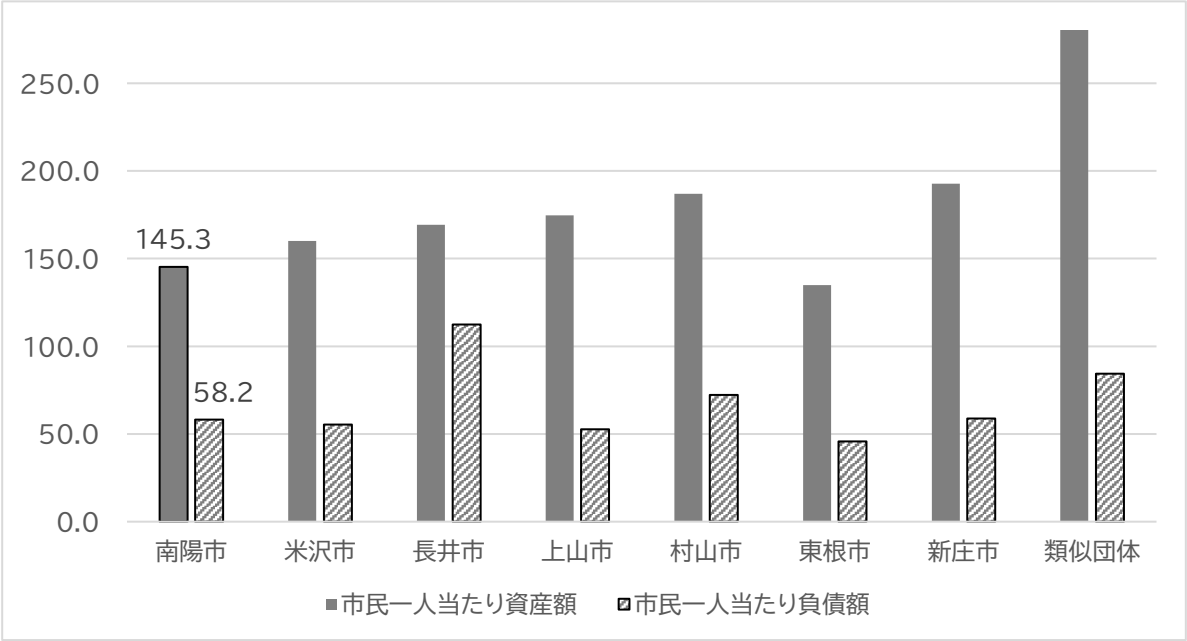
【計算式】 使用料及び手数料 ÷ 純経常行政コスト

【参考資料】 「自治体担当者のための公会計の統一的な基準による財務書類の作成実務」
落合幸隆著 （株）ぎょうせい

主要指標の県内自治体との比較（令和5年度決算：一般会計等）

南陽市の現状について県内の近隣及び同規模自治体と比較してみました。
（総務省：令和5年度 統一的な基準による財務書類に関する情報より） ※比較可能な最新値

◆市民一人当たりの資産と負債



(単位:万円)

	南陽市	米沢市	長井市	上山市	村山市	東根市	新庄市	類似団体
市民一人当たり資産額	145.3	160.0	169.3	174.7	186.9	135.0	192.7	305.4
市民一人当たり負債額	58.2	55.3	112.5	52.7	72.3	45.8	58.8	84.3

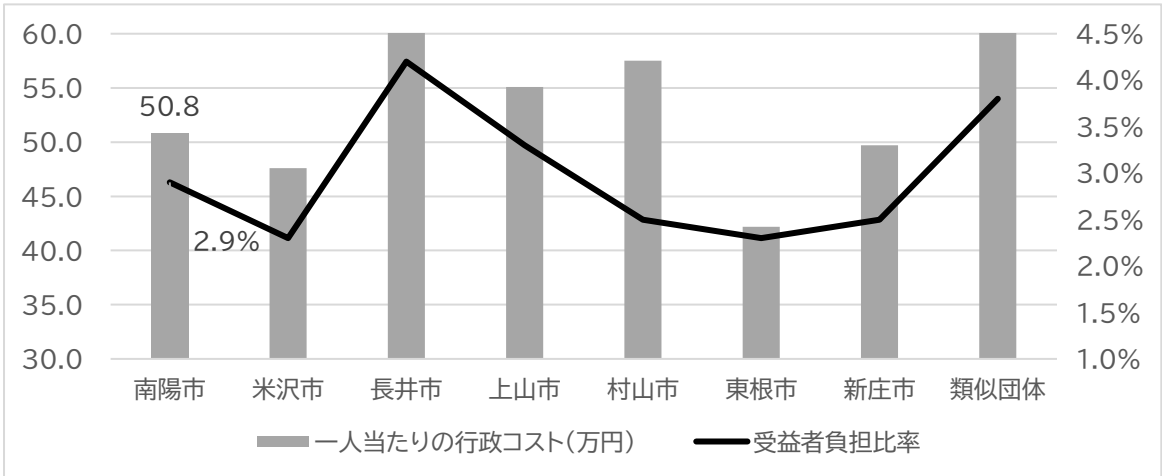
人口	29,465	75,838	24,851	28,084	21,742	47,830	32,860
----	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------

人口は令和6年1月1日現在

過去に取得した建物等の事業用資産の減価償却が進み、資産は減少傾向にあります。
負債については、地方債残高が減少していますが人口減少の影響もあり横ばいとなっています。
人口規模が小さい自治体ほど、人口増減の影響が数値に大きく反映されます。

*類似団体
＝人口、産業構造の組み合わせで分類し、そのなかで標準的な運営をしている自治体の平均値をとったもの。

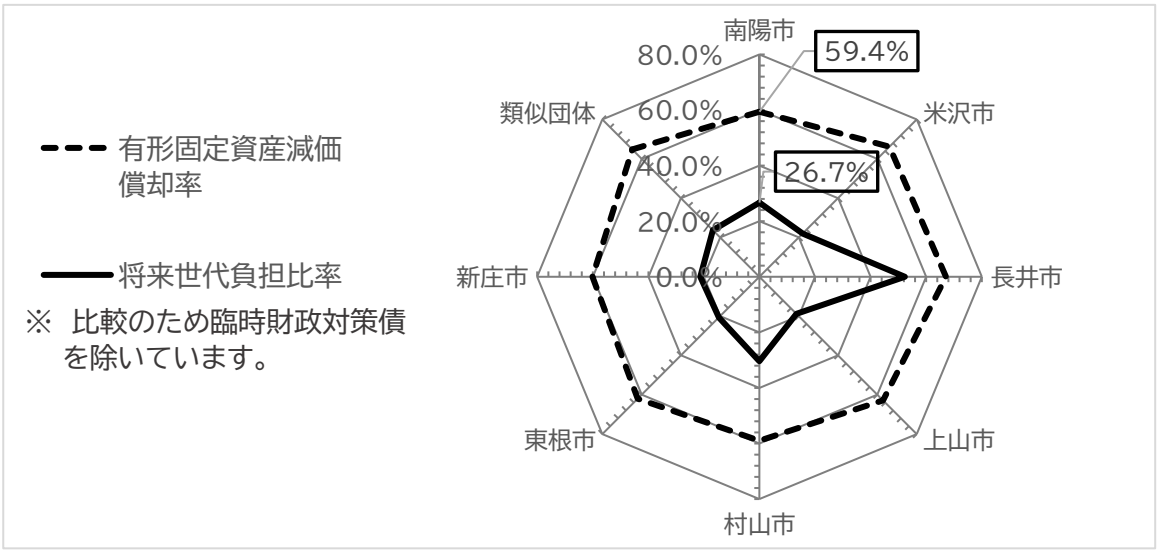
◆行政コストと受益者負担率



	南陽市	米沢市	長井市	上山市	村山市	東根市	新庄市	類似団体
一人当たりの行政コスト(万円)	50.8	47.6	63.0	55.1	57.5	42.2	49.7	68.1
受益者負担比率	2.9%	2.3%	4.2%	3.3%	2.5%	2.3%	2.5%	3.8%

南陽市の一人当たりの行政コスト、受益者負担率は、他と比較してコストは中位ですが、負担は低い傾向にあります。

◆施設の老朽化率と将来世代への負担



	南陽市	米沢市	長井市	上山市	村山市	東根市	新庄市	類似団体
有形固定資産減価償却率	59.4%	66.2%	67.1%	62.9%	59.0%	62.0%	60.1%	64.8%
将来世代負担比率	26.7%	22.0%	52.3%	18.8%	30.4%	20.7%	21.3%	23.7%

有形固定資産減価償却率(老朽化率)は平成26年に文化会館を整備したため他と比較しても高くはありません。(本市規模の場合、大規模な建設事業があれば数値に大きく影響します。)

将来負担比率についても補助事業や交付税措置のある有利な地方債の活用により将来世代の大きな負担とはなっていません。